

期日が大祭日等ニ該當シ其日ニ取引ヲ爲サル慣習アル場合ニ就テハ法律ニ特別ノ規定無シ。期日ハ特定ノ日ヲ以テ之ヲ定ムルモノナルガ故ニ此規定ヲ類推適用スルノ理由ニ乏シ(註二)。

(註一) 同趣旨三七年一〇月二二日民錄一〇輯一二九七頁此判決ハ公證人又ハ執達吏ノ爲スベキ拒絶證書作成行爲ヲ此規定ニ言フ取引ナリトス。正當ナリ。

(註二) 手形ノ満期日ニ付キ同說東地判新聞三八號二〇頁法曹會決議法曹記事二〇卷一號所載四二年一月一三日決議拙著法律行爲乃至時效五七七頁等。反對中島氏民法釋義七八五頁三瀧氏五三〇頁等。

末日ノ算出法

(3) 末日ノ算出法 末日ノ算出法ニ付テハ口ヲ以テ定メタル期間ニ付テハ問題ヲ生セザルモ月又ハ年ヲ以テ定メタル期間ニ付テハ之ヲ日ニ換算スルヤ否ヤノ問題ヲ生ズ。民法ハ曆ニ從ヒ曆ニ於テ一月トスルモノハ其大小ヲ問ハズ一月トシ曆ニ於テ一年トスルモノハ平閏ヲ問ハズ皆一年トス(一四三)。(一四三) 週ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニ付テモ民法ハ曆ニ從フモノトスルモ週ハ之ヲ日ニ換算スルヤ否ヤニ依テ差異ヲ生ゼズ。

週月又ハ年ヲ單位トシテ期間ヲ定メタル場合ニ其週月又ハ年ノ始メヨリ期

間ヲ起算セザルトキハ其ノ期間ハ最後ノ週月又ハ年ニ於テ其起算日ニ應當スル日ノ前日ヲ以テ滿了ス。但シ月又ハ年ヲ以テ期間ヲ定メタル場合ニハ最後ノ月ニ應當日ナキコトアルヲ以テ其場合ニハ其月ノ末日ヲ以テ満期日トス(四二二)。(四二二) 例ヘバ十二月三十日ニ於テ今ヨリ二ヶ月間ト云フトキハ平年ニ於テハ二月二十八日ヲ以テ末日トスルガ如シ。

### 第五章 時效

#### 第一節 總論

##### 第一款 時效ノ意義

一 時效 (prescription; prescription; Verjährung) トハ一定ノ期間一定ノ事實狀態ノ繼續シタルコトヲ成立要素トスル法律要件ヲ謂フ。

(1) 一定ノ期間ノ經過ヲ要素トス。其期間ノ長短ニハ時效ノ種類ニ依リテ差異アレド常ニ法律ニ定メタル期間ノ經過ヲ必要トス。故ニ時ノ經過ヲ要素トセ

時效ノ意

時ノ經過

事實ノ繼

ザルモノハ時効ニアラズ。民法第九十二條ノ規定スル動產物權ノ即時取得ハ時ニ即時時効(*prescription instantané*)ト稱セラル、コトアレド時ノ經過ヲ必要トスルモノニアラザレバ固ヨリ時効ニアラズ。

(2) 一定ノ事實狀態ノ繼續ヲ要素トス。時ノ經過ノミニ因リテハ時効ハ成立セズ。其時ノ經過スル期間内一定ノ事實狀態(占有準占有又ハ權利ノ不行使)ガ繼續セルコトヲ要ス。然レドモ此事實狀態ハ適法ニ成立シタルモノナルコトヲ必要トセズ單純ナル事實上ノ狀態タルヲ以テ足ル。此單純ナル事實狀態ガ時ノ經過ト結合シテ法律狀態トナリ、權利得喪ノ原因トナルコト之レ時効ノ特質ナリ。

法律要件

(3) 時効ハ法律要件ナリ。而シテ我民法上ノ時効ハ權利ノ取得又ハ喪失ノ原因タル法律要件ナリ。權利得喪ノ推定ニアラズ又權利得喪ノ證據ニアラズ夫レ自身權利得喪ノ原因ナリ。我民法ハ時効ニ因リテ「權利ヲ取得ス」(一六二條以下)ト謂ヒ或ハ權利ヲ喪フ(一六七條以下)ト謂フニ依リテ時効ヲ以テ權利得喪ノ原因トシタルコト明ナリ。

如何ナル  
權利ニ於  
於  
原因  
得

二 時効ハ如何ナル意義ニ於テ權利得喪ノ原因タルカ。此點ニ付テ研究ヲ要スル事項ニアリ。

(1) 時効ノ效果タル權利ノ取得及ビ喪失ハ當然ニ生ズ、即チ時効ノ利益ヲ受クベキ當事者ガ之ヲ受ケントスルノ意思表示ヲ爲スコトヲ要セズ、時効完成スレバ他ノ事實ヲ要セズシテ權利得喪ノ效果ヲ生ズ。獨逸民法ニ於ケル請求權ノ時効(*Anspruchverjährung*)ハ請求權ソノモノヲ消滅セシムルモノニアラズシテ請求權ニ對シ給付ヲ拒絶シ得ベキ抗辯權(*Einrede, Verteidigungsrecht*)ヲ成立セシムルニ過ギズ、又時効ニ罹リタル債務ヲ辨濟シタルトキハ縱令時効完成ヲ知ラズシテ辨濟シタル場合ニ於テモ返還請求權ナキモノトス(獨民二條)。此後ノ點ニ付テハ我民法ニ於テモ時効ノ利益ノ拋棄トナルヤ否ヤニ付テ議論アルコト後ニ述ブルガ如シト雖モ、我民法ノ時効ガ單ニ抗辯權ヲ成立セシムルニ止マラズ當然權利得喪ノ效果ヲ生ズルノ點ニ付テハ解釋上疑ヲ容ル、ノ餘地ナシ。

(2) 時効ニ因ル權利ノ得喪ハ當事者ノ意思ヲ問ハズシテ發生スルコト上述ノ如シト雖モ、其發生シタル權利ノ得喪ヲ利用スルヤ否ヤハ當事者ノ任意ニ屬ス。

當事者ノ  
任意ニ  
屬ス

蓋シ時効ニ因リテ債務ヲ免レタル者ガ時効ノ恩惠ヲ被ルコトヲ欲セズシテ辨濟ヲ爲サントスルトキ強ヒテ債務者ヲシテ其時効ノ利益ヲ受ケシムルノ理由ナク又時効ニ因リテ權利ヲ取得シタル者ニ付テモ其權利取得ヲ強要スルノ理由無ケレバナリ。即チ時効ニ因リテ生ジタル權利得喪ノ效果ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ確定スルヲ得ベク又之ヲ初ヨリ發生セザリシモノト爲スコトヲ得。換言スレバ時効ノ效果ハ絕對的ニアラズシテ相對的ナリ、確定的ニアラズシテ可動的ナリ、條件ナル觀念ヲ此場合ニ用フレバ(民法謂フ所ノ條件ハ法律行爲ノ附款ナレバ固ヨリ時効ニ付テ民法謂フ所ノ條件ガ存スルニアラズ)條件的ニシテ且解除條件的ナリト謂フヲ得ベシ。其結果次ノ如シ。

(イ) 完成シタル時効ノ利益ハ當事者ニ於テ之ヲ拋棄スルコトヲ得(第四款)。  
 (ロ) 時効ハ當事者ガ之ヲ援用スルニ非ザレバ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ズ(三四五條、第一、三款參照)。之レ當事者ガ援用ヲ爲サルコトニ確定スルニ因リテ時効ハ初ヨリ效力ヲ生ゼザリシコトニ確定スルガ故ナリ。

時効ノ效果ニ付キ多數ノ學者ハ以上述べタル所ト異リ時効ノ法律效果ガ當

然ニ生ズルノミナラズ又**絕對的**ニ生ズルモノトシ、**第四百四十五條**ハ時効ノ實體法上ノ效果ニハ關係ナク唯裁判官ノ職權ヲ制限シタルニ止マルモノトス(註一)。余ハ次ニ述ブル二個ノ理由ニ因リテ此多數說ニ從ハズ。(1) 援用ヲ以テ實體法ニ於ケル時効ノ效果ニ關係ナシト解スルハ裁判所ニ對シ實體法上權利者ニ非ザル者ヲ權利者トシ、義務者ニ非ザル者ヲ義務者ナリトシテ判決スルコトヲ命ズルモノニシテ明ニ實體法ト手續法トノ間ニ矛盾ヲ生ズ。當事者ガ援用ヲ爲サルコトニ確定シタルトキ實體法上ニ於テモ時効ハ效力ヲ生ゼザリシコトニ確定スルガ故ニ裁判所モ亦時効ノ效力ヲ認メザルモノト解スルニ非ザレバ此矛盾ヲ避クルコトヲ得ズ。(2) 多數說モ亦時効ノ利益ヲ受クベキ當事者ハ時効完成後ニ於テ時効ノ利益ヲ拋棄シ得ルモノト認ム。此拋棄ハ時効ガ初ヨリ其效果ヲ生ゼザリシモノトスルニ非ザレバ時効ノ利益ヲ拋棄セントスル當事者ノ意思ニ適スルコトヲ得ザルベク、而シテ拋棄ガ此效果ヲ有スルガ爲メニハ時効ノ法律效果ガ當事者ノ意思ニ依リテ動カシ得ベキモノナルコト即チ可動的又ハ條件的ノモノナルコトヲ要ス。

時效ノ效果ヲ以テ停止條件的ナリト解スル少數説アリ穂積博士ノ主張スル所ナリ(註二)。此見解ハ時効ノ效果ガ當然ニ生ズルコトヲモ否認シ、援用ヲ俟ツテ始メテ時効ノ效果ヲ生ズルモノトシ、隨ツテ消滅時効ニ罹レル債務ノ履行ハ時効ノ利益拋棄ノ意思表示ヲ伴ハザル場合ニ於テモ常ニ有效ナル債務ノ辨濟トナルモノトス。然レドモ法文ヲ去ルコト餘リニ甚シキ解釋ナルガ故ニ余ハ此見解ヲ採ラズ。

(註一) 富井氏、六三七頁、平沼氏、六九一頁、中島氏、八〇一頁、松岡氏、六二二頁、三浦氏、五四五頁、大正八年七月四日大判、民錄、二五輯一、二一五頁。三浦氏ハ余ノ見解ニ對シ「週及效ヲ有スル時効ニ關シ不週及ヲ原則トスル條件ヲ以テ説明セントスルハ當タラズ」ト述ブ。然レドモ余ハ固ヨリ民法謂フ所ノ條件ガ時効ノ效力ニ對シテ附與セラレタリト謂フニハアラズ、其效力不確定ノ狀態ヲ生ズルコトガ條件附法律行為ト同様ナルガ故ニ説明ノ便宜ノ爲メ條件的トイフ語ヲ用ヒタルニ過ギズ。故ニ此非難ハ當ラズ。

(註二) 穂積氏、下二一三頁、同氏、大正十年庭判例民法四六頁。本文述ブル余ノ見解ト同趣旨、川名氏、二八四頁以下、拙著法律行為乃至時効五八五頁、拙稿判批、民事判例研究五七頁、法協三八卷一號一一七頁。

時効ト除斥期間

三 消滅時効ト除斥期間(Ausschlussfrist)又ハ豫定期間(délai préfixe)トハ性質ヲ異ニス。除斥期間ハ一定ノ權利ニ對シ法律ノ豫定セル在續期間ナリ消滅時効ハ之ニ異リ權利ガ行使セラレザルコトニ因リテ消滅スルモノニシテ其權利ハ初ヨリ一定ノ期間内ノミ存續スベク豫定セラル、ニハ非ズ。隨ツテ(1)除斥期間ハ時効ノ如ク中斷又ハ停止ニ因リテ延長セラル、コトナシ。(2)除斥期間ノ經過シタルトキハ權利ハ絶對的ニ消滅シ當事者ノ行為拋棄、不援用ニ因リテ其效果ヲ左右セラル、コトナシ(註)。

法律ノ定ムル期間ガ時効期間ナリヤ除斥期間ナリヤヲ定ムル標準ハ法文ノ句ニ依ル。時効ニ因リテ「トイフ」字句ヲ用ヒタル場合ハ時効期間ニシテ(六二四二六)此字句ヲ加ヘズ單ニ權利ノ存續期間ヲ定メタルトキハ(一九三條一九五條等)除斥期間ナリ。(一九三條一九五條等)

(註) 石坂氏判批、第五百六十四條ノ定ムル期間ノ性質「民法研究三卷五〇二頁、京法九卷一三六五頁、中嶋氏、除斥期間及ヒ出訴期限」京法九卷七五五頁以下。中嶋氏ハ時効以外ノ期間ヲ更ニ除斥期間ト出訴期限トニ分チ法律ガ一定ノ期間内ニ訴ヲ提起スルヲ要ス或ハ一定期間後ハ訴ヲ提起スルヲ得ズト規定シタル場合ハ(二〇一條、八二五

條、八一六條、八一八條、八七〇條、九五一條等) 訴權ノミ消滅スルモノトス。然レドモ此等ノ場合ニ實體法上ノ權利モ亦消滅スルモノト解スルコト我民法ノ趣旨ナリト考フ。英法ニハ出訴期限法タル時効法アリ Real Property Limitation Act; Statute of Limitation.

### 第二款 時效制ノ理由

一 權利ハ之ニ對スル事實狀態ヲ排除スル效力ヲ有スルヲ原則トス。然ルニ時効ハ永續セル事實狀態ヲシテ權利ニ優リタル效力ヲ有セシメ事實狀態ハ却ツテ權利ヲ排シテ法律ノ保護ヲ受クルニ至ル。之レ時効制ニ付テ特ニ其ノ立法理由ノ研究セラル、所以ナリ。

永續セル事實狀態ハ社會的秩序ヲ成立セシム。世人ハ故障ナク永續セル事實狀態ヲ以テ適法ナルモノト思惟シ此信任ヲ基礎トシテ諸種ノ法律關係及ビ事實關係ヲ建設スルコト多シ。然ルニ多年ノ後ニ至リ古キ證據材料ニ基キテ原權利者ノ權利ヲ認メ此社會的秩序ヲ轉覆スルハ社會ノ公益ニ害アリ社會ノ公益ヲ犠牲トシテ原權利者ノ權利ヲ認ムルハ法律ノ目的ニ反ス。之レ時効制ヲ認ムル主要ナル立法理由ニシテ要スルニ永續セル事實狀態ニ因リテ成立ス

時効制ノ理由

時効ニ關スル法規ノ強行性

ル社會的秩序ヲ保護スルニ歸ス。附隨的理由トシテハ尙種々ノ事由ヲ舉グルヲ得ベシ。久シキニ亘リテ故障ナク存續シタル事實狀態ハ大多數ノ場合ニ於テ正當ニ成立シタル事實狀態ナルコト其一ナリ。永ク自己ノ權利ヲ行使セザリシ者ハ自ラ其權利ノ上ニ眠レル者ト言フベク、爲メニ權利ヲ喪フモ酷ニ失セザルコト亦民法上ノ時効ニ付テハ理由ノ一ニ數フルヲ得ベシ。要スルニ時効ハ時ノ力ノ否認スベカラザル效果ノ一ニ屬ス。之ヲ慣習法ト比較スレバ慣習法ハ時ノ力ガ客觀的法律ノ上ニ及ビタルモノニシテ時効ハ時ノ力ガ主觀的權利ノ上ニ及ビタルモノト言ヒテ可ナリ。

二 時効制度ガ社會的秩序ヲ維持スル公益上ノ理由ニ基クノ結果トシテ時効ニ關スル法規ハ強行性ヲ有スルヲ原則トス。即チ或ル權利ニ付キ時効ニ罹ラザルモノトシ或ハ時効完成ヲ困難ナラシムル特約ハ無効ナリト解セザルベカラズ。然レドモ時効期間ヲ短縮シ其他時効ノ完成ヲ容易ナラシムル特約ハ公益ニ反スルコトナキヲ以テ有效ト解スベシ(獨民二二)。

### 第三款 時效ノ效力

遯及效

一 時效ノ效力ハ其起算日ニ遯ル(四條)。普通ノ法律要件ニアリテハ其法律要件ノ完成シタル時ニ將來ニ對シテ效力ヲ生ズルヲ原則トスルニ反シ、時効ニアリテハ期間満了ノ時ニ法律要件バ完成スルモノナルモ其完成シタル時効ノ效力ハ時効期間ノ起算日ニ遯リ、即チ其起算日ニ於テ權利ノ得喪アリタルト同一ノ效果ヲ生ズルナリ。法律ガ時効ノ效果ニ付テ此特則ヲ設ケタルハ時効制ノ理由ニ基ク。時効期間進行中ノ事實狀態ヲモ併セテ保護スルニ非ザレバ所謂事實的秩序ハ之ヲ保護スルコトヲ得ザルナリ。起算日ハ取得時効ニ付テハ物ノ占有又ハ權利ノ準占有ヲ始メタル日、消滅時効ニ付テハ權利ヲ行使シ得ベカリシ日ナリ。其期間ノ初日ガ全一日ニアラザルトキハ初日ハ之ヲ算入セザルコト勿論ナリ。

遯及效ノ結果

二 遯及效ノ結果ノ主要ナルモノ次ノ如シ。  
 (1) 天然果實及ビ法定果實ハ時効ニ因リテ權利ヲ取得シタル者ニ歸屬ス又消

不動產ノ取得ノ時効ハ登記カテ要スル

滅時効ニ因リテ債務ヲ免レタル者ハ起算日以後ノ利息ヲ支拂フコトヲ要セズ。  
 (2) 時効ニ因リテ權利ヲ取得シタル者ガ其起算日以後ニ爲シタル法律上ノ處分ハ時効ノ完成ニ因リテ有效トナル。例ヘバ不動産ノ占有者ノ爲シタル地上權永小作權、抵當權等ノ設定行爲ハ其行爲當時ニ於テハ無權利者ノ處分行爲トシテ無効ナルモ爾後時効ノ完成スルトキハ遯及的ニ有效トナルガ如シ。  
 (3) 時効ニ因リテ權利ヲ喪ヒタル者ガ其起算日以後爲シタル處分行爲ハ時効完成ニ因リ遯及的ニ無効トナル。  
 (4) 時効ニ因ル不動産取得ハ登記ヲ以テ對抗要件トナスヤ否ヤ。時効ノ完成ニ因リテ直接ニ不利益ヲ被ルベキ者ニ對スル關係ニ於テハ當事者ニ對スル關係ナルヲ以テ登記ヲ要セザルコト明ナレド第三者ニ對スル關係ニ於テハ之ヲ必要トスルモノト解スルヲ正當トスベシ(註)。唯時効ニ付テ當事者ト謂フコトガ特殊ノ意義ヲ有スル當然ノ結果トシテ第三者ト謂フコトモ亦特殊ノ意義ヲ有スルコトヲ注意セザルベカラズ即チ時効ニ因リテ不利益ヲ受クベカリシ者ノ包括承繼人ガ當事者タルハ勿論其特定承繼人モ亦時効ヲ認ムル反面ノ效果ト

シテ不利益ヲ受クベキトキハ第三者ニ非ズシテ當事者タルモノト解セザルベカラズ。

(註) 余ハ嘗テ時効完成ヲ理由トシテ權利ノ取得ヲ主張スル場合ニハ第三者ニ對スル關係ニ於テモ登記ヲ必要トセザルモノト解セリ、拙著法律行為乃至時効六〇一頁以下。然レドモ時効完成ヲ理由トスル場合ニ於テモ對當事者關係ト對第三者關係トヲ區別シ、後ノ關係ニ於テハ物權公示ノ通則ニ依リ登記ヲ要スルモノト解スルヲ正當トス、同趣旨、大正七年三月二日大判民錄二四輯四二三頁、學者間ノ通説ナリ、末弘氏物權法上、一三〇頁及ビ同處(註一八)引用ノ諸著。當事者ノ包括承繼人ニ對スル關係ニ於テ登記ヲ要セズトシタル判決、大正一三年三月一七日大判、判例集三卷一六九頁ハ固ヨリ正當ナリ。

(5) 時効ニ因リテ取得セラレタル權利ヲ時効ノ起算日以後侵害シタル者アルトキハ時効ニ因リ權利ヲ取得シタル者ハ不法行為者ニ對シテ損害賠償ノ請求ヲ爲スコトヲ得。

(6) 適及効ニ對スル一ノ例外アリ、時効ニ因リテ消滅シタル債權ガ其消滅以前ニ相殺ニ適シタル場合ニ於テハ其債權者ハ相殺ヲ爲スコトヲ得ルモノトス(五〇八條)。  
三 時効ハ當事者ガ之ヲ援用スルニ非ザレバ裁判所之ニ依リテ裁判ヲ爲スコトヲ得ズ(一四條)。

時効ノ援用

トヲ得ズ(一四條)。

(1) 援用 (Vorschützen, opposer) ト時効ノ效力トノ關係ニ付テハ上ニ述べタリ。通説ハ之ヲ以テ裁判上ニ於ケル時効ノ適用ノミニ關スルモノト解スルモ余ハ援用ニ依リテ時効ノ效力確定シ、不援用ノ確定スルニ依リテ時効ハ初ヨリ效力ヲ生ゼザリシコトニ確定スルモノト解ス。

(2) 援用ノ方法ニ付テハ法文ニ特ニ規定ナク解釋上議論アリ。多數說ハ援用ヲ以テ裁判官ノ職權ヲ補充スル行為ナリト解スルガ故ニ裁判所ニ於テ時効ノ利益ヲ受クベキ旨ヲ主張スルコトヲ要スルモノトス。判例亦然リ。然レドモ援用トイフ字句ハ特ニ裁判上ノ防禦方法ノミヲ意味スルモノト解スルノ理由ナク、且援用ヲ必要トシタル立法上ノ理由ハ時効ノ利益ヲ受クルヤ否ヤヲ當事者ノ任意ニ決定セシメントスルニ在ルヲ以テ必ラズシモ裁判上之ヲ主張スルコトヲ要スルモノト解スルノ理由ナシト信ズ(註)。實際上ノ結果ニ於テモ裁判外ノ援用ヲ認ムルヲ遙カニ便宜トス。即チ時効ニ因リテ直接ニ利益ヲ受ケザル者ガ時効完成ヲ理由トシテ訴ヲ提起セントスル如キガ場合、例ヘバ手形債權ノ

消滅時効ヲ理由トシテ債權者ガ償還請求ヲ爲サントスルガ如キ場合ニ於テハ時効ノ當事者ガ裁判外ニ於テ援用ヲ爲シタルコトヲ證明シテ訴ヲ提起シ得ルモノトスルヲ便宜トスベシ。

(註) 同趣旨川名氏二八六頁穂積氏下二一九頁。反對大正八年七月四日大判民錄二五輯一二一五頁三藩氏五四七頁等多數說。

(3) 援用ノ時期ニ付テハ法律上制限ナシ。第一審ニ於テ之ヲ爲サザルモ第二審ノ判決前ニ於テ爲スヲ以テ足レリトス(註)。上告審ハ法則適用ノ錯誤ノミヲ以テ理由トシ而シテ採用ナキニ因リ時効ノ效果ヲ認メザル判決ハ法則適用ノ誤ナキヲ以テ第二審ノ判決以後ニ於テハ援用ヲ爲スコトヲ得ズ。

(註) 判例及ビ學說ノ認ムル所ナリ、大正一二年三月二六日大判判例集二卷一八二頁、三藩氏判批法協三七卷二九三頁。第一審ニ於ケル不援用ヲ以テ拋棄ノ意思ヲ伴フモノトスル少數ノ反對說アリ、睡道氏京法一二卷八四五頁。

(4) 一旦援用ヲ爲シタル後當事者ハ之ヲ撤回シ時効ノ利益ヲ拋棄スルコトヲ得ルカ。判例ハ援用ガ訴訟上ノ防禦方法ニ過ギザルコトヲ理由トシ何時ニテモ任意ニ撤回シ得ルモノトス。然レドモ援用ニ因リテ時効ノ效力ガ確定スルモノト解スルトキハ、爾後贈與ヲ爲スハ格別、時効ノ利益ヲ拋棄シテ時効完成セザ

援用ノ撤回アリ

リシト同一ノ結果ヲ生ズルコトヲ得ザルモノト解セザルベカラズ(註)。

(註) 大正八年七月四日大判、民錄二五輯一二一五頁其ノ批評、拙稿法協三八卷一一七頁民事判例研究五七頁。

援用權者

(5) 時効ノ援用ヲ爲シ得ル者ハ時効ノ當事者ナリ。時効ノ當事者トハ時効成立ニ關與シタル者ヲ云フニ非ズシテ時効ニ因リ直接ニ法律效果ヲ受クル者ヲ云フ。然レドモ茲ニ當事者ト謂フハ此法律效果ヲ受クル者ノ中時効ノ利益ヲ受クル者即チ權利ヲ取得シ又ハ義務ヲ免カル者ノミヲ謂フ。時効ニ因リテ不利益ヲ受クベキ者モ之ヲ當事者ト解スベキコトナキニ非ズト雖モ援用ヲ以テ效力確定ノ要件トシタル理由ニ就テ考フレバ茲ニ謂フ當事者ハ不利益ヲ受クベキ當事者ヲ包含セザルコト明ナルベシ。

時効ニ依リテ利益ヲ受クル者ニハ直接ニ利益ヲ受クル者ト間接ニ利益ヲ受クル者トアリ。其ノ間接ニ利益ヲ受クル者例ヘバ時効ニ因リテ所有權ヲ取得スベキ者ヨリ地上權、永小作權等ノ設立ヲ受ケタル者ハ當事者ニハ非ズシテ第三者タルモノト解スルヲ正當トス(註1)。



連帶債務者ノ一人ニ付テ完成シタル時効ノ效果ニ付テハ法律ニ特別ノ規定アリ(四三九條)。保證人ニ付テハ特別ノ規定ナキモ保證債務ノ附從性ノ結果トシテ主タル債務消滅シタルトキハ保證債務モ亦當然消滅スベク隨テ保證人モ亦直接ニ時効ノ利益ヲ受クル者トシテ援用ヲ爲スコトヲ得ベシ(註二)。

時効ノ利益ヲ受クベキ當事者數人アル場合ニ於テ其ノ一人ノ爲シタル援用又ハ不援用ハ他ノ當事者ニ對シテ效力ヲ生ズベキカ。解釋上多少議論アルモ時効ヲ利用スルヤ否ヤハ各當事者獨立ニ之ヲ決定シ得ベク隨テ一當事者ノ爲シタル援用又ハ不援用ハ他ノ當事者ニ影響ヲ及ボサザルモノト解スルヲ正當トス(註三)。但シ第三者ハ債權者トシテ第四百二十三條ノ債權者代位權ヲ行使スル場合ヲ除キ自ラ時効ノ援用ニ關與スルコトヲ得ズ隨テ一般ノ第三者ニ對スル關係ニ於テハ當事者ノ爲シタル援用及ビ不援用ハ當然第三者ニ對スル法律關係ヲモ確定スベク又債權者モ第四百二十三條ノ解釋上當事者ノ爲シタル權利行使行爲ノ效果ヲ受クベキモノトス。

(註一) 同趣旨大正八年六月一九日大判民錄二五輯一〇五八頁、穗積氏下二一九頁、中島

氏八〇六頁等。

(註二) 拙著「日本債權法總論」二六八頁同趣旨大正四年一月一日大判民錄二一輯二〇五一頁。

(註三) 同趣旨大正八年六月二四日大判民錄二五輯一〇九五頁、三浦氏五四六頁。反對穗積氏下二二〇頁。

### 第四款 時効ノ拋棄

一 時効ノ利益ハ豫メ之ヲ拋棄スルコトヲ得ズ(六四條)。時効完成前ニ於テ將來時効ノ完成シタル場合ヲ豫想シ豫メ其ノ利益ヲ受ケザル旨ノ意思表示ヲ爲スコトヲ許ストキハ時効ノ適用ハ之ニ依リテ排除セラレ時効制ヲ設ケタル公益上ノ理由ニ反スルガ故ニ諸國ノ法制概ネ皆事前ノ拋棄ヲ禁ズ(獨民二二五條佛。民二二二〇條)。時効期間ノ進行前ニ於テ爲シタル拋棄ハ當然皆事前ノ拋棄トシテ無効ナリ。進行中ニ於テ爲シタル拋棄ハ其ノ過去ニ經過シタル期間ノ利益ノミヲ拋棄スル場合ニハ承認ト同ジク中斷ノ效力ヲ生ズルモ將來ニ對シテ將來完成スベキ時効ノ利益ヲ拋棄スルハ事前ノ拋棄トシテ之ヲ許サズ。

事前ノ拋棄ヲ許サズ

二 時效完成後ニ於テ時効ノ利益ヲ拋棄スルハ有效ナリト解スルヲ通説トス。法律ニ明文ナシト雖モ特ニ豫メ拋棄スルコトヲ禁ゼルハ事後ニ於テ拋棄スルヲ禁ゼザルノ趣旨ト解スベク又完成後ニ於テ私人ノ意思ノ效力ヲ認ムルモ時効制ノ根基ヲ破壊スルノ弊ヲ見ズ。

(1) 拋棄ノ性質ニ付テハ議論アリ。或ハ之ヲ贈與ナリトス(註一)。既ニ取得シタル權利ヲ更ニ讓渡シ既ニ消滅シタル債務ト同一ノ内容ヲ有スル債務ヲ新ニ負擔スルモノト解スル説是ナリ。若シ時効ヲ以テ絶對的ニ權利得喪ノ效果ヲ生ズル原因ナリトセバ斯クノ如ク解スルヲ理論上正當トスベシ。然レドモ拋棄ヲ爲ス當事者ハ過去ニ於ケル法律效果ヲ消滅セシメントスル意思ヲ有スルモノニシテ新ニ法律關係ヲ作ラントスル意思ヲ有スルニ非ズ、又新ナル法律關係ト解スルトキハ擔保權消滅等ノ效果ヲ生ジ其ノ結果不當ナリ。加之法律ハ當事者ニ對シ時効ノ利益ヲ受クベキコトヲ強要スルノ理由ナキガ故ニ當事者ニ於テ之ヲ受ケザル旨ノ意思表示ヲ爲シタルトキハ其ノ意思表示ノ效力ヲ認ムルヲ正當トス。

拋棄ノ性質

或ハ拋棄ハ時効ガ一旦其ノ效力ヲ生ジタル後ニ於テ嘗テ之ヲ生ゼザリシモノト爲ス一種ノ追認ナリトス(註二)。此ノ説ハ追認ノ效果ヲ認ムル點ニ於テ正當ナルモ若シ追認ニ付テ此ノ效果ヲ認メントセバ既ニ述べタルガ如ク時効ヲ以テ絶對的ニ確定の權利得喪ノ效果ヲ生ズルモノト解スルヲ得ズ。

余ハ拋棄ヲ以テ當事者が時効ノ完成ニ因ル利益ヲ受ケザル旨ノ意思表示トナシ之ニ因リテ時効ノ完成セザリシト同一ノ效果ヲ生ズルモノトス(註三)。此ノ如ク解スルコトガ最モ良ク當事者ノ意思ニ適シ且民法ガ時効ヲ利用スルヤ否ヤヲ以テ當事者ノ任意トシタル趣旨ニ適スベシ。

拋棄ハ完成シタル時効ノ利益ヲ受ケザル旨ノ意思表示ナルガ故ニ時効中斷ノ原因タル承認ト異ナリ時効ノ完成ニ付テ認識ヲ有セザルトキハ拋棄ノ意思アルベカラズ。此ノ點ニ付テ問題トナルハ時効完成後債務者ノ爲シタル辨濟ガ時効ノ拋棄トナルヤ否ヤノ點ナリ。時効ノ完成ヲ知ラズシテ爲シタル辨濟ハ拋棄ノ意思ヲ伴フモノト解スルコトヲ得ザルモ其ノ知ラザリシコトニ付テハ辨濟者ニ於テ舉證ノ責任ヲ負フモノト解スルヲ正當トスベシ(註四)。

(註一) 平沼氏六九六頁、川名氏二八七頁、松岡氏六二五頁、三濤氏五五三頁。

(註二) 富井氏六三三頁。

(註三) 拙著「法律行為乃至時效」六一三頁、穗積氏下二二〇頁、判例ハ拋棄ヲ以テ時効ノ效カヲ消滅セシムル意思表示ナリトス、大正三年四月二五日大判、民錄二〇輯三四二頁、大正六年二月一九日大判、民錄二三輯三一二頁。即チ判例ハ贈與說ヲ採ラザルナリ。  
(註四) 同趣旨、大正六年二月一九日、民錄二三輯三一頁、同年四月二六日大判、同輯六七二頁、大正一〇年二月一四日大判、民錄二七輯二八五頁、其詳釋末弘氏大正十年度判例民法四三頁等。未弘氏ハ債務承認ソノモノ、效力ヲ認ムベシトス。\*

大正一〇年二月七  
日大判三民  
錄二例三頁  
頁判例三頁  
法三九頁  
我妻氏評  
釋  
拋棄ノ能  
力減限

拋棄ノ方  
法

(2) 拋棄ノ能力及ビ權限ニ付テハ特別ノ規定ナシ。然レドセ拋棄ハ既ニ完成シタル時効ノ效果ヲ消滅セシムルモノナルガ故ニ固ヨリ處分行爲ト解スベク隨ツテ處分ノ能力及ハ權限ヲ要ス。拋棄ト承認トハ其性質及ビ效果ヲ異ニスルヲ以テ第五十六條ヲ類推適用スベカラザルハ疑ヲ容レズ。  
(3) 拋棄ノ方法ハ相手方ニ對スル意思表示ナリ。贈與ト異リ相手方ノ承諾ヲ必要トセザルモ相手方ニ對スル意思表示ヲ必要トス。

### 第五款 時効完成ノ障礙

時効ハ其期間ガ進行ヲ始メタル後一定ノ事實狀態ノ存スルガ爲メニ其完成ヲ妨ゲラル、中斷及ビ停止是ナリ。併セテ時効完成ノ障礙トイフコトヲ得ベシ。

### 第一項 中斷

中斷ノ性  
質

一 時効ノ中斷 (Interruption: Unterbrechung) トハ時効ノ要素タル事實狀態ト相反スル一定ノ事實ノ生ジタルガ爲メニ既ニ經過シタル期間ヲ無効ニ歸セシムルコトヲ謂フ。

中斷事由

二 中斷事由ニハ取得時効及ビ消滅時効ニ共通ナルモノト取得時効ニ特殊ナルモノトアリ。前者ハ法律ニ規定スル一定ノ事項ナルガ故ニ之ヲ法定中斷ト謂ヒ後者ハ取得時効ノ要素タル占有又ハ準占有ノ事實ソノモノガ消滅スルモノナルガ故ニ之ヲ自然中斷ト謂フ。茲ニ述ブル所ハ法定中斷ニ限ル。

時効中斷ノ事由ハ(1)請求(2)差押假差押又ハ假處分及ビ(3)承認ナリ(七四)。  
次ノ如シ。

(1) 請求 茲ニ請求トハ權利ヲ行使スル裁判上又ハ裁判外ノ行爲ヲ謂フ。消滅

請求

時效ニ付テハ時効ニ罹ルベキ權利ノ行使ニシテ取得時効ニ付テハ物ノ返還請求、妨害除去ノ請求ノ如キ是ナリ。權利ノ行使アルトキハ權利ノ上ニ眠レルノ事實之無キガ故ニ法律ハ之ヲ以テ中斷事由トシタルナリ。

請求タルベキ事項トシテ民法ハ次ニ述ブル六種ノ事實ヲ舉ゲタリ。民法ガ特ニ之等六種ノ事項ニ付テ規定ヲ設ケタルガ爲メニ其列舉ハ制限的列舉ナリヤ或ハ例示ナリヤ解釋上疑問ヲ生ズ。民法ハ特ニ制限的列舉ナルコトヲ示スベキ字句ヲ用ヒズ且列舉以外ノ權利行使行爲ニ付テモ中斷ヲ認ムベキ實質的理由アルガ故ニ寧ろ例示ト解スルヲ正當トスベシ。其列舉以外ノ事項ガ如何ナル效力ヲ有スル中斷事由トナルベキカハ列舉事項中之ト最モ類似シタル事項ニ關スル規定ヲ類推適用シテ之ヲ定ムベシ(註)。

(註) 債權者ガ債權ノ一部ニ付キ相殺ヲ爲スハ中斷事由ト爲ラザルモノトス、大正一〇年二月二日大判、民錄二七輯一六八頁。然レドモ我妻氏ガ其解釋、大正十年度判例民法二二頁ニ於テ謂フガ如ク催告ト同一ノ中斷ノ效力ヲ認ムルヲ正當トス。穂積氏下二二二頁ハ例示トス。列舉以外ノ事項ニ付テハ後ニ述ブル所ニ依リ明ナルベシ。

(イ) 裁判上ノ請求(九條) 裁判上ノ請求トハ訴ノ提起ヲ謂フ。民事ノ訴ハ給付ノ

裁判上ノ請求

訴タルト確認ノ訴タルト形成ノ訴タルトヲ問ハズ又本訴タルト反訴タルトヲ問ハズ皆之ヲ包含スルコト疑無シ。附帶私訴モ亦民事ノ訴タル性質ヲ有スルヲ以テ之ヲ包含スルモノト解セザルベカラズ。行政訴訟及ビ行政訴訟願ハ民事訴訟手續ニ依リテ權利ヲ主張スルモノニ非ザルガ故ニ之ヲ包含セザルモノトシタル判例アリ。是等ノ手續ニ依リテ間接ニ私權ニ影響ヲ及ボスコトアルベシト雖モ其ノ直接ノ目的ハ行政處分ノ取消若クハ變更ヲ求ムルニ在ルヲ以テ判例ノ解釋ヲ正當トスベシ(註一)。

裁判上ノ請求ニ因ル時効中斷ハ訴ノ提起ノミニ因リテ生ズルカ或ハ訴狀ノ送達ヲ要スルカ解釋上議論アルモ起訴說ヲ正當トス。蓋シ訴ヲ提起シタルトキハ既ニ當事者ガ權利ヲ實行スル行爲ヲ爲シタルモノト解スベキノミナラズ若シ送達ヲ必要トスルトキハ裁判所ノ手續ノ遅延ノ爲メニ時効ノ完成スル結果ヲ生ズルコトアルガ故ナリ(註二)。

此ノ中斷ハ訴ガ却下セラレ又ハ取下ゲラレザルコトヲ要件トス。却下セラレタルトキハ其ノ實質上ノ理由ニ因ルト管轄違其ノ他形式上ノ理由ニ因ルト

ヲ問ハザルモノト解スルヲ通説トス。然レドモ形式上違法ナル手續ニ依リテ請求ガ相手方ニ到達シタル場合ニ於テハ裁判上ノ請求トシテハ時効中斷ノ効力ヲ生ゼザルモ裁判外ノ請求即チ催告トシテ第五百十三條ノ規定スル效果ヲ認ムルヲ正當トスベシ。取下ハ原告ノ取下ゲタル場合ト一年間ノ休止ニ因リ取下ト看做サル、場合(八條三項)トヲ包含ス。

(註一) 大正五年二月八日大判民録二二輯三八七頁。尙債務者ガ債權者ニ對シ消極的確認ノ訴ヲ起シ之ニ敗訴スルモ債權者ガ權利ヲ行使シタルニ非ザレバ中斷事由トナラズトシタル判決アリ、大正一一年四月一四日判例集一卷一八七頁、十一年度判例民法一二四頁(我妻氏評釋、反對)。裁判上ノ權利行使トシテ中斷ノ効力ヲ認ムルヲ可トスベシ。

(註二) 同趣旨明治三六年五月五日大判民録九輯五三一頁、大正四年四月一日大判民録二一輯四四九頁、富井氏六四六頁、中島氏八二二頁、三浦氏五五六頁。反對横田氏志林一一卷二號七〇頁。尙手形ノ呈示ヲ伴ハザル裁判外ノ請求ニ付テハ中斷ノ効力ナシトスル判例アルモ訴ニ付テハ呈示ヲ必要トセズトス、明治四四年二月二二日大判民録一七輯七一頁。

支拂命令

(ロ) 支拂命令(一五) \* 一定ノ金額ノ支拂其他ノ代替物ノ給付若クハ有價證券ノ一

\*本條ハ大正四年四月九日法律第五號改正シテ施行スルモ但シ未ダ勅令ハ公布セズ

定ノ數量ノ給付ヲ目的トスル請求ニ付キ其ノ債權者ガ通常ノ訴訟手續ニ依ラズシテ迅速ニ其ノ權利ヲ行使センガ爲メニ區裁判所ニ申請シテ債務者ニ對シテ發セシムルコトヲ得ル命令ヲ支拂命令(Zahlungsbefehl)ト謂フ(民訴三八) 權利實行行為ニ屬スルガ故ニ之ニ時効中斷ノ効力ヲ與ヘタルナリ。

中斷ノ効力發生ノ時期ニ付テハ支拂命令申請ノ時ナリヤ或ハ送達ノ時ナリヤ解釋上議論アリ。判例ハ送達ニ因リテ中斷ノ効力ヲ生ズルモ其ノ効力ハ申請ノ日ニ遡及スルモノトス(註)。結果ニ於テ同一ナルモ申請ノ日ニ條件的中斷ノ効力ヲ生ジ爾後送達アルニ因リ其ノ効力確定スルモノト解スルヲ正當トスベシ。

支拂命令ニ因ル中斷ノ効力ハ爾後其ノ支拂命令ニ因ル權利拘束ガ其ノ効力ヲ失ハザルコトヲ條件トス。例ヘバ債務者ガ支拂命令ニ對シテ異議ヲ述ベタル場合ニ於テ當該ノ請求ニ付キ起スベキ訴ガ地方裁判所ノ管轄ニ屬シ且法定期間内ニ債權者ガ管轄裁判所ニ訴ヲ起サハルトキハ權利拘束ハ其ノ効力ヲ失フヲ以テ(民訴三九) 時効中斷ノ効力モ初メヨリ生ゼサリシモノトナル。

(註) 明治三十四年一〇月一日大判、民錄七輯九卷六頁、大正二年三月二〇日大判、民錄一九輯一三七頁、大正四年五月二〇日大判、民錄二一輯七五〇頁。

和解ノ爲メニ呼出スル

(ハ) 和解ノ爲メニ呼出(一五) 訴ヲ起サントスル者ハ先ヅ和解ノタメニ請求ノ目的物ヲ開示シテ相手方ヲ其ノ普通裁判籍ヲ有スル區裁判所ニ呼出スベキコトヲ申立ツルコトヲ得(八三) 此ノ呼出ノ申立ハ權利實行々爲ノ一トシテ時効中斷ノ效力ヲ有ス(佛民二二四五條) 此ノ中斷モ亦條件的效力ヲ有スルモノニシテ即チ相手方ガ出頭セズ又ハ和解ノ調ハザルトキハ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルニ非レバ時効中斷ノ效力ヲ生ゼザルモノトス。

任意出頭

(ニ) 任意出頭(一五) 訴訟ノ當事者トナルベキ者ガ通常ノ裁判日ニ於テ豫メ期日ノ指定ナクシテ裁判所ニ出頭シ訴訟ニ付テ辯論ヲ爲スコトヲ謂フ(七八條) 此ノ中斷モ亦和解ノ調ハザルトキハ一ヶ月内ニ訴ヲ提起スルニ非ザレバ其效力ヲ生ゼズ。

手續參加

(ホ) 破産手續參加(二五) 債權者ガ破産財團ノ配當ニ加入スル爲メニ其ノ債權ノ届出ヲ爲スヲ謂フ(八二條) 此ノ參加ハ請求ノ一方法トシテ中斷ノ效力ヲ有ス

ルモ參加ヲ取消シ又ハ參加ノ請求ガ却下セラレタルトキハ中斷ノ效力ナシ。破産宣告ノ申立ガ中斷事由トナルヤ否ヤニ付テハ解釋上議論アリ。多數說ハ破産手續參加ニモ非ズ又裁判上ノ請求ニモ非ザルガ故ニ中斷ノ效力ナキモノトス。余モ亦嘗テ此見解ヲ採リタルモ權利實行々爲ノ一トシテ中斷ノ效力ヲ認ムルヲ正當トスベシ(註)。

(註) 同趣旨明治三十七年一二月九日大判、民錄一〇輯一五七八頁、梅氏要義三八八頁。反對富井氏六四九頁、中島氏八二九頁、三浦氏五六一頁、拙著「法律行爲乃至時効」六三四頁。

(ヘ) 催告(三五) 債務者ニ對シ其ノ債務ノ履行ヲ請求スル旨ノ債權者ノ意思ノ通知ヲ云フ。

催告ノ方式ニ付テハ制限ナシ。必ズシモ書面ニ依ルヲ要セズ又執達吏ニ依ルノ要ナシ、只後日ニ證據ヲ殘スベキ方法ニ依ルヲ實際上便宜トスルノミ。此ノ如ク汎ク裁判外ノ催告ニ時効中斷ノ效力ヲ認ムルハ我民法ノ特色ナリ。催告ハ時効中斷ノ效力ヲ生ズルノ外期限ノ定ナキ債務ニ付テ債務者ヲ遲滯ニ附スルノ效力ヲ生ズ。然レドモ此ノ二ツノ效力ヲ生スベキ催告ノ要件ハ全

然同一ナルモノト解スベカラズ。履行遲滯ニ在リテハ債務者ノ履行ヲ爲サハルコトガ不當ナルコトヲ要スルヲ以テ例ヘバ双務契約ニ於テ同時履行ノ抗辯(三五條)ノ存スル場合ニ債權者ガ自己ノ債務ノ履行提供ヲ爲サズシテ請求ヲ爲スモ附遲滯ノ効力ヲ生ゼザルモノト解スルヲ正當トス。履行ノ請求ニ依リテ時効中斷ノ効力ヲ生ズルハ之ト異ナリ債務者ノ履行ヲ爲サルコトガ不當ナルヲ要セズ唯債權者ガ其ノ權利ヲ行使シタルコトノミヲ必要トスルガ故ニ上ニ述ベタル例ニ於テハ履行ノ提供ヲ要セザルモノト解ス。判例ハ手形ニ付キ手形ノ呈示ヲ伴ハザル請求ヲ以テ中斷事由タルニ適セザルモノトス(註)。疑問ナリト雖モ商法第二百七十九條ニ於テ請求ニ手形ノ呈示ヲ必要トスルハ唯遲滯ノミニ限り而シテ手形ノ呈示ナキ催告ハ債務者ニ於テ果シテ債權者ノ請求ナリヤ否ヤヲ知ルベカラズトスルモ客觀的ニ之ヲ見レバ尙權利者ノ權利實行々爲タルニ妨ゲナキガ故ニ催告ニ依リテ生ズベキ薄弱ナル時効中斷ノ効力ハ之ヲ認ムルヲ正當トスベシ。

催告ニ依リテ生ズベキ薄弱ナル時効中斷ノ効力ハ

催告ニ因ル中斷ノ効力ハ薄弱ナリ。即チ催告ノアリタル後六个月内ニ裁判

上ノ請求等第五百十三條ニ列舉セル更ニ有力ナル權利實行ノ手段ヲ執ルニ非レバ始メヨリ中斷ノ効力ヲ生ゼザリシモノトス。催告ノ後更ニ數回催告ヲ爲スモ此ノ六個月ノ期間ヲ延長スルヲ得ズ。隨テ催告ハ時効期間滿了ニ近ヅキタル際裁判上ノ請求其ノ他ノ中斷ノ手段ヲ採ルガ爲メニ期間ノ猶豫ヲ設クルノ意味ニ於テ中斷事由トシテノ實益アルモノト謂フベシ。

(註) 大正一三年三月一七日大判判例集三卷一七三頁及ビ同處引用ノ判例。判例ニ登成、富井氏六五〇頁、三浦氏五六二頁、拙著「法律行為乃至時効」六三六頁。

差押假差押假處分

(2) 差押、假差押及ビ假處分(一五五條、一五五條)。

(1) 差押ハ確定判決其他ノ債務名義(執行名義)ニ基キテ爲ス強制執行行為ニシテ有力ナル權利實行行為ニ屬スルコト明ナリ(四條以下)。假差押、假處分ハ共ニ強制執行保全ノ手段ニシテ(七條以下)國家ノ執行機關ニ依リテ權利實行ノ準備ヲ爲スモノナレバ又時効中斷ノ効力ヲ有ス。差押、假差押又ハ假處分ハ必ラズシモ裁判上ノ請求アリタルコトヲ前提トスルモノニ非ザレバ之ヲ獨立ノ中斷事由トスル必要アルナリ。其中斷ノ効力ヲ生ズルハ執行機關ガ之等ノ行為ヲ爲

シタル時ニシテ當事者ガ其申立ヲ爲シタル時ニアラズ(註)。法律ハ執行機關ノ行爲ヲ以テ權利實行行爲ト認メタルモノト解スベケレバナリ。

(註) 同趣旨、大正一三年五月二〇日大判、判例集三卷二〇三頁。

(ロ) 中斷ノ效力ハ之等ノ命令ガ權利者ノ請求ニ因リ又ハ法律ノ規定ニ從ハザルニ因リテ取消サレザルコトヲ條件トス。即チ其取消サレタルトキハ初ヨリ中斷ノ效力ヲ生ゼザリシコト、ナル。

(ハ) 差押、假差押又ハ假處分ハ時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ爲サル、コト、然ラザルコト、アリ。後ノ場合ニ於テハ時効ノ利益ヲ受クル者ニ對シテ差押等ヲ爲シタル旨ヲ通知シタル後始メテ時効中斷ノ效力ヲ生ズルモノトス(五<sup>一</sup>五<sup>條</sup>)。

例ヘバ甲ガ乙ノ債務ノ擔保トシテ自己ノ財産ノ上ニ質權又ハ抵當權ヲ設定シタル場合ニ債權者丙ガ甲ノ其財産ヲ差押ヘタルトキハ乙ニ對シテ通知ヲ爲スコトヲ要スルガ如シ(註)。

(註) 此場合ト異リ甲ガ乙ニ對シテ有スル債權ヲ甲ノ債權者丙ガ差押サヘタル場合ニ甲乙間ノ債權ノ時効ガ中斷セラル、ヤ否ヤニ付テハ規定ナシ、判例ハ認メズ、大正一

〇年一月二六日大判、民錄二七輯一〇八頁、其評釋(我妻氏、大正十年大判判例民法一四頁(反對))。

(3) 承認

(イ) 承認トハ時効ノ利益ヲ受クベキ當事者ガ權利者ノ權利ノ存在セルコトヲ知レル旨ヲ表示スル行爲ヲ謂フ。債務者ガ此ノ如キ行爲ヲ爲シタル場合ニ之ニ信賴シテ權利ノ行使ヲ爲サハ敢テ權利行使ヲ怠リシモノト言フベカラザルガ故ニ時効中斷ノ效力ヲ與ヘタルナリ。隨ツテ此承認ハ固ヨリ新ニ債務ヲ負擔スベキ旨ノ意思表示ニアラズ唯債權ノ存在ヲ認識スル旨ノ知ノ表示ナリ(註)。

(註) 同趣旨、大正一〇年三月四日大判、民錄二七輯四〇七頁、準法律行爲トス(其評釋(平野氏)大正十年大判判例民法七八頁。反對(意思表示トス)大正五年一〇月一三日大判、民錄二二輯一八八六頁、其判批、拙稿、法協三五卷五四三頁、民事判例研究六三頁(此判批ニ觀念通知ト解スベキ理由ヲ詳述ス))。

(ロ) 承認ハ相手方ニ對スル表示ヲ必要トス(註)。法典ニハ特ニ表示ヲ必要トスル旨ヲ明定セズト雖モ、觀念通知ニ付テハ意思表示ニ關スル法規ヲ準用スベク且

相手方ニ對スル表示ヲ要ス



承認ヲ中斷事由ト爲シタル理由ニ付テ考フレバ表示ヲ必要トスルノ理由アルガ故ニ利息ノ記入其他ノ行爲ニ依リテ債務ヲ認ムルノ趣旨外部ニ現ハレタリトスルモ相手方ニ對シテ之ヲ表示シタルニ非ザレバ中斷事由ト爲ラザルモノトス。若シ債務者ガ債務存在ヲ知レルコトノミヲ以テ中斷事由ト爲サバ惡意ノ債務者ハ總テ皆時効ノ利益ヲ受ケザルコト、ナリ法律ガ善意惡意ヲ區別セザルノ趣旨ヲ沒却スベシ。然レドモ苟クモ相手方ニ對スル表示アラバ其表示方法ノ書面タルト口頭タルトヲ問ハザルハ固ヨリ言ヲ俟タズ。

(註) 同趣旨、前註ニ掲ゲタル大正五年ノ大判及ビ其判批。

(ハ) 承認ノ能力及ビ權限ニ付テハ特別ノ規定アリ、承認者ガ相手方ノ權利ニ付キ處分ノ能力又ハ權限ヲ有スルコトヲ要セザルモノトス<sup>(六一五)</sup>。相手方ノ權利ニ付キト謂フハ其權利ヲ承認者自ラ有シタリシモノトシテ之ヲ處分スル能力權限ヲ要セズト謂フノ意義ナリ。又處分ノ能力權限ヲ要セズト謂フハ何等ノ能力權限ヲモ要セズト謂フノ意味ニアラズ管理ノ能力權限ハ之ヲ要スルモノト解セザルベカラズ。即チ準禁治產者ハ有效ニ承認ヲ爲スコトヲ得ルモ禁治產

能力權限

完成後ノ時効

者ハ之ヲ爲スコトヲ得ズ又未成年者ハ其特ニ能力ヲ有スル場合ヲ除キ法定代理人ノ同意ヲ要スルモノトス。承認ヲ以テ管理行爲トシタル理由ハ承認ノ性質ニ付テ考フレバ明瞭ナルベシ。

(ニ) 承認ハ時効進行中ニ於テノミ存在スルコトヲ得。時効ノ期間進行前ニ於テ承認ノ存在スルコトヲ得ザルハ言ヲ俟タズ。時効完成後ニ於テモ中斷アルベカラザルガ故ニ又中斷ノ效力ヲ生ズベキ承認アルコトヲ得ズ。唯時効ノ完成アルコトヲ知リテ爲サレタル承認ガ拋棄トシテ拋棄ノ效力ヲ生ズルコトアルノミ(註)。

(註) 同趣旨、大正一〇年二月七日大判民錄二七輯二三三頁、其判批三瀧氏、法協三九卷六號一三七頁、其評釋(我妻氏)大正十年度判例民法三九頁。

三 中斷ノ效力

(1) 中斷ノ效力ノ範圍(八條) 法定中斷ハ當事者及ビ其承繼人ノ間ニ於テノミ其效力ヲ有ス。自然中斷ハ後ニ述ブル如ク取得時効ノ要素タル占有又ハ準占有ノ事實ガ消滅シタルニ因ルモノナルガ故ニ總テノ人ニ對スル中斷ノ效力ヲ生

中斷ノ效力

ズルモ法定中斷ハ時効ノ要素ソノモノヲ消滅セシムルモノニアラザルガ故ニ唯當事者及ビ其承繼人ノ間ニ於テノミ効力ヲ生ジ第三者ヲ利スルコトナク又之ヲ害スルコトナシ。茲ニ當事者ト謂フハ時効當事者ノ全部ヲ謂フニハアラズ唯中斷ニ關與シタル者ノミヲ謂フ。例ヘバ占有者二人アル場合ニ其ノ一人ニ對シテ中斷ノ行為ヲ爲スモ他ノ一人ノ爲メニ進行スル時効ヲ中斷セザルガ如シ。連帶債務(四三)連帶保證(八四)保證(七五)及ビ共有者ノ地役權(二八四)ニ付テハ特則アリ。

中斷後ノ時効

(2) 中斷後ノ時効 中斷ハ中斷事由終了後新ニ時効ノ進行スルヲ妨ゲズ。其時効期間ハ固ヨリ新ニ之ヲ起算スベク中斷前經過シタル期間ハ全ク之ヲ加算スルコト無シ。

中斷後進行スベキ時効ノ起算點ハ中斷事由終了ノ時ナリ。其終了ノ時ハ各中斷事由ニ付テ其ノ中斷ノ原因タル事實ノ終了シタル時ニシテ裁判上ノ請求ニ於テハ裁判確定ノ時(七五)支拂命令ニ於テハ債務者ガ異議ヲ申立テザル場合ニハ異議申立期間滿了ノ時、異議ノ申立アリ通常訴訟ノ提起アリタル時ハ其ノ

裁判確定ノ時、和解ノ爲メニスル呼出ニ於テハ和解ノ調ヒタル時又ハ和解調ハズシテ訴ヲ提起シタル時ナリ。其他ノ中斷事由ニ付テハ上ニ述べタル所ヲ推シテ中斷事由終了ノ時ヲ決スルコト容易ナルベシ。

### 第二項 停止

時効ノ停止

一 時効ノ停止(suspension: Hemmung Ruhen)トハ一定ノ事實ノ存在スルニ因リ時効ガ一時其進行ヲ休止スルコトヲ謂フ。我民法ハ時効完成ノ際ニ於テノミ此停止ヲ認め一定ノ事實ノ存在スルトキハ時効ノ完成ヲ猶豫ス。即チ我民法ニ於ケル停止ハ時効ニ因リテ權利ヲ失フベキ者ヲ保護センガ爲メニ認めタル時効完成ノ猶豫ナリ。

二 停止事由四アリ。次ノ如シ。

(1) 時効ノ期間滿了前六个月内ニ於テ未成年者又ハ禁治産者ガ法定代理人ヲ有セザルコト(八五)。此場合ニハ其者ガ能力者ト爲リ又ハ法定代理人ガ就職シタル時ヨリ六个月内ハ之ニ對シテ時効完成セズ。蓋シ此ノ如キ者ハ自ラ權利ヲ

停止事由

實行スルコト殆シド不能ナルヲ以テ時效ノ完成ニ因リテ不利益ヲ被ルコト無カラシメタルナリ。

(2) 無能力者ガ其財産ヲ管理スル父、母又ハ後見人ニ對シテ有スル權利ニ付テハ其者ガ能力者ト爲リ又ハ後任ノ法定代理人ガ就職シタル時ヨリ六个月内ハ時效完成セズ。妻ガ夫ニ對シテ有スル權利ニ付テハ婚姻解消ノ時ヨリ六个月内ハ時效完成セズ(一五條)。權利者ガ義務者ニ對シテ以上ノ如キ服從關係ニアルコトハ全然時效ノ進行ヲ阻止スル結果ヲ生ゼザルモ法律ハ其完成ヲ猶豫セシメタルナリ。

(3) 相續財産ニ關シテハ相續人ノ確定シ(相續ノ承因)管理人ノ選任セラレ(相續人缺因)一〇(五)又ハ破産ノ宣告アリタル時(破以下)ヨリ六个月内ハ時效完成セズ(一六條)。此規定ハ相續財産ニ屬スル權利ト相續財産ニ對スル權利トニ通ジテ適用アリ。蓋シ相續財産ニ付テ何人ガ管理權ヲ有スルヤ明ナラザルトキハ之ニ屬スル權利ヲ行使スルコト能ハザルノミナラズ之ニ對シテ權利ヲ行使スルコトモ亦容易ナラザルガ故ナリ(民訴四、六條)。

(4) 時效ノ期間満了ノ時ニ當リ天災其他避クベカラザル事變ノ爲メ時效ヲ中断スルコト能ハザルコト(一六條)。此場合ニハ其妨碍ノ止ミタル時ヨリ二週内ハ時效完成セザルモノトス。茲ニハ時效完成ノ時ト言ヘルヲ注意スベシ。サレド此ノ完成ノ時ト云フヲ解シテ完成ノ瞬間ト爲スハ字句ニ拘泥スルモノナリ例ヘバ完成前一日ニ妨碍事由消滅シタリトスルモ其最後ノ一日ニ時效中断ヲ爲スコト困難ナリト認ムベキ事情アルトキハ停止ヲ認ムルヲ正當トスベシ。又茲ニ避クベカラザル事變ト謂フハ天災ニ比スベキ外部的ノ障碍例ヘバ戰亂暴動等ヲ云フ。權利者ノ疾病旅行等主觀的障礙ハ之ヲ包含セズ。

### 第二節 取得時效

#### 第一款 總說

一 取得時效 (prescriptio acquisitiva, usucapio, acquisitive prescription, prescription acquisitive, Ersitzung) トハ權利取得ノ原因タル時效ヲ云フ。占有又ハ準占有ト時ノ經過トヲ要素トスル法律要件ナリ。

取得時效ノ意義

二 取得時效ノ結果他ノ反面ニ於テ權利ノ喪失ヲ來スコトアリ。例ヘバ所有權ノ取得時效ノ結果トシテ從來ノ所有者ガ所有權ヲ喪失スルガ如シ。然レドモ之レ權利取得ノ結果ニシテ時效ソノモノノ效果ニハ非ズ。サレバ之ヲ以テ消滅時效ト解スルハ誤ナリ。

三 取得時效ノ適用範圍ハ財産權ニ限ル。人格權身分權ノ如キハ時效ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ズ。財産權ノ中ニ在リテモ法律ノ規定ニ因リ又ハ權利ノ性質上時效ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ザルモノアリ、後ニ述ブベシ。

### 第二款 所有權ノ取得時效

所有權ノ取得時效

一 要件 所有權ノ取得時效ハ一定ノ要件ヲ具ヘタル占有ト法定ノ期間トヲ以テ其成立要素トス。

(1) 占有 占有トハ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ物ヲ所持スルヲ謂フ(一八條)。其占有ガ取得時效ノ要素タルガ爲メニハ特ニ次ノ要件ヲ具ヘザルベカラズ。

(イ) 自主占有ナルコト 即チ所有ノ意思ヲ以テスル占有タルコトヲ要ス。所有

ノ意思ヲ以テスル占有トハ物ニ付テ所有者ト同様ナル支配ヲ爲スノ意思ヲ以テスル占有ヲ云フ。必ズシモ所有者ナリト信ズルコトヲ必要トセザルハ惡意ノ占有者モ又所有ノ意思ヲ有スルコトアルニ依リテ明ナリ。又必ズシモ所有權ヲ取得セントスル意思ヲ要セズ。唯事實上所有者ト同様ナル支配即チ他人ヲ排シテ物ニ付テ一般的支配ヲ有ス意思ヲ有スルヲ以テ足ル。

所有ノ意思ハ表示ヲ要セザルヲ原則トス。唯權原ノ性質上占有者ニ所有ノ意思ナキモノトスル場合ニ於テハ其占有者ガ自己ニ占有ヲ爲サシメタル者ニ對シテ所有ノ意思アルコトヲ表示シ又ハ新權原ニ因リ更ニ所有ノ意思ヲ以テ占有ヲ始ムルニ非レバ占有ハ其性質ヲ變ゼザルモノトス(一八條五條)。

所有ノ意思ヲ以テスル占有ハ直接占有ナルコトヲ要セズ即チ代理占有ニ於テハ所謂代理人ガ本人ノ爲メニ物ノ一般的支配ヲ爲ス意思ヲ有スルニ因リ本人ハ自主占有者タルコトヲ得ルナリ(註)。

大正六年三月一日  
大正七年五月一日  
大正八年八月一日  
大正九年十一月一日  
大正十年一月一日  
大正十一年一月一日  
大正十二年一月一日  
大正十三年一月一日  
大正十四年一月一日  
大正十五年一月一日  
大正十六年一月一日  
大正十七年一月一日  
大正十八年一月一日  
大正十九年一月一日  
大正二十年一月一日  
大正二十一年一月一日  
大正二十二年一月一日  
大正二十三年一月一日  
大正二十四年一月一日  
大正二十五年一月一日  
大正二十六年一月一日  
大正二十七年一月一日  
大正二十八年一月一日  
大正二十九年一月一日  
大正三十年一月一日  
大正三十一年一月一日  
大正三十二年一月一日  
大正三十三年一月一日  
大正三十四年一月一日  
大正三十五年一月一日  
大正三十六年一月一日  
大正三十七年一月一日  
大正三十八年一月一日  
大正三十九年一月一日  
大正四十年一月一日  
大正四十一年一月一日  
大正四十二年一月一日  
大正四十三年一月一日  
大正四十四年一月一日  
大正四十五年一月一日  
大正四十六年一月一日  
大正四十七年一月一日  
大正四十八年一月一日  
大正四十九年一月一日  
大正五十年一月一日  
大正五十一年一月一日  
大正五十二年一月一日  
大正五十三年一月一日  
大正五十四年一月一日  
大正五十五年一月一日  
大正五十六年一月一日  
大正五十七年一月一日  
大正五十八年一月一日  
大正五十九年一月一日  
大正六十年一月一日  
大正六十一年一月一日  
大正六十二年一月一日  
大正六十三年一月一日  
大正六十四年一月一日  
大正六十五年一月一日  
大正六十六年一月一日  
大正六十七年一月一日  
大正六十八年一月一日  
大正六十九年一月一日  
大正七十年一月一日  
大正七十一年一月一日  
大正七十二年一月一日  
大正七十三年一月一日  
大正七十四年一月一日  
大正七十五年一月一日  
大正七十六年一月一日  
大正七十七年一月一日  
大正七十八年一月一日  
大正七十九年一月一日  
大正八十年一月一日  
大正八十一年一月一日  
大正八十二年一月一日  
大正八十三年一月一日  
大正八十四年一月一日  
大正八十五年一月一日  
大正八十六年一月一日  
大正八十七年一月一日  
大正八十八年一月一日  
大正八十九年一月一日  
大正九十年一月一日  
大正九十一年一月一日  
大正九十二年一月一日  
大正九十三年一月一日  
大正九十四年一月一日  
大正九十五年一月一日  
大正九十六年一月一日  
大正九十七年一月一日  
大正九十八年一月一日  
大正九十九年一月一日  
大正一百年一月一日

民法三八五頁(拙評)。尙此判決ハ惡意ノ代理占有ヨリ善意ノ本人占有ニ移ルモ惡意ノ占有タル性質ヲ變セザルモノトス。此點ニハ贊成セズ。

(ロ) 平穩ノ占有ナルコト 平穩ノ占有(possession paisible: ruhiger Besitz)トハ強暴ノ瑕疵(Vice de violence)ヲ帶ビザル占有即チ暴行又ハ強迫ヲ以テ保持セラレザル占有ヲ謂フ。

強暴ノ瑕疵ハ限時的ニシテ且相對的ナリ。強暴ヲ以テ始メタル占有モ其強暴ノ止ミタル後ニ於テハ平穩ノ占有ト爲リ又一人ニ對シ強暴ノ瑕疵ヲ帶ブルモ他人ニ對スル關係ニ於テハ平穩ノ占有タルヲ妨グズ(註)。

(註) 多數説ナリ、富井氏六六九頁、平沼氏六八二頁、中島氏八六四頁。反對中島氏物權一二四頁三浦氏五八六頁。

(ハ) 公然ノ占有ナルコト 占有ノ公然(publique: öffentlich)トハ隱秘ノ瑕疵(Vice de clandestinité)ヲ帶ビサル占有即チ占有物ニ付キ利害關係ヲ有スル人ニ對シ特ニ占有ノ事實ヲ隱蔽セザル占有ヲ云フ。此隱秘ノ瑕疵モ亦限時的ニシテ且相對的ナリ。

(ハ) 他人ノ物ノ占有ナルコト 蓋シ自己ノ物ニ付テハ更ニ時効ニ因リテ所有權ヲ取得スルヲ得ザルガ故ナリ。サレド時効ニ因ル權利取得ハ原始的取得ナルガ故ニ取得者ニ於テ他人ノ物ナルコトヲ證明スルノ要ナシ。

公共ノ用ニ供セラルベキ物ニ付テハ公用廢止後ニ非ザレバ時効取得ノ目的トナラザルモノトシタル判例アリ。然レドモ公用ニ供セラル、物ニ付テ國家ハ私法上ノ所有權ヲ有スルモノニシテ且私人ガ所有權ヲ取得シタル後ニ於テモ公用廢止ノ手續ナキ間ハ公用ハ依然繼續スベキモノナルガ故ニ取得時効ヲ認ムルモ妨ナカルベシ(註)。

(註) 大正八年二月二四日大判民錄二五輯三三六頁、大正一〇年二月一日大判民錄二七輯一六〇頁、三浦氏判批法協三七卷一二〇六頁、同三九卷九七六頁、大正十年度判例民法一九頁(平野氏評釋)。兩氏共ニ判例ニ反對ナリ。官有地取扱規則一條道路法施行令一條參照。尙一筆ノ土地ニ非ザレバ取得時効ノ目的ト爲ラズトシタル鷹クベキ判決アリ、大正一一年一〇月一〇日大判、判例集一卷五七五頁、大正十一年度判例民法、三七〇頁(末弘氏評釋、判例ニ反對)。

(2) 一定ノ期間ノ經過 取得時効ニ必要ナル期間ハ占有者ノ善意ナルト惡意ナ

\*此點ハ判決改訂聯  
合部ヲ以テ改  
メテ大正一〇年三月  
大正七年一月三  
九年七月五日  
民九頁集五〇  
六民事評釋  
田三氏評釋  
釋義四例

ルトニヨリテ差異アリ。

(イ) 占有者が善意無過失ナルトキハ十年ヲ以テ時効期間トシ然ラザルトキハ二十年ヲ時効期間トス(二六) 善意ノ取得時効ハ法文上不動産ニ付テノミ規定セラル。動産ニ付テハ第九十二條ノ規定アルガ故ニ善意ノ取得時効ヲ規定セザリシモノナルベシ。然レドモ第九十二條ニハ權利讓渡行為ヲ必要トスルモノト解スルトキハ權利讓渡行為ニ基カズシテ占有ヲ始メタル者が善意無過失ナル場合ニ善意ノ取得時効ヲ認ムル必要生ズ。余ハ此場合ニ於テハ第六十二條ノ趣旨ニ基キ善意ノ十年ノ取得時効ヲ認ムベキモノト解ス。蓋シ動産ニ關スル時効期間ガ不動産ニ關スル夫レニ比シテ長カルベキ理由ナケレバナリ。

善意ノ意

(ロ) 善意ノ意義ニ付テ從來二説アリ。積極的ニ自己ガ權利者ナリト信ズルコトヲ謂フモノト解スル見解ト消極的ニ自己ニ屬セザルコトヲ知ラザルコトヲ謂フモノト解スル見解ト是ナリ。兩説ハ多ク差異ヲ生ゼザルモ自己ニ屬スルヤ否ヤ疑ヲ懷ケル者ハ前説ニ依レバ惡意トナルベク後説ニ依レバ善意ト爲ルベシ。

シ。疑ヲ懷ケル者ヲ保護スルノ要ナキガ故ニ前説ヲ採ル(註)。

無過失トハ占意者ノ善意ナリシコトガ不注意ニ基カザリシコトヲ謂フ。其

注意ノ程度ハ原則ニ依リ善良ナル管理者ノ注意ナリ。

(註) 同趣旨富井氏法協三一巻一八六頁、横田氏物權下二六頁、川名氏三〇二頁、消極説石坂氏民法研究上巻四五四頁、乾氏志林一四巻九號、尙中島氏ハ自己ガ不正行為ヲ爲サズトノ積極的確信ナリトス(八六七頁)。善意ハ多ク不知ヲ意味スルモノナルモ此場合及ビ第一九二條ニ付テハ確信ト解スルコト立法ノ趣旨ニ適スベシ。

(ハ) 上述ノ期間内占有ノ繼續セルコトヲ要ス。其期間ニ付テ占有者ハ前主ノ占有ヲ併セ主張スルヲ得ベク又自己ノ占有ノミヲ主張スルヲ得ベシ。占有者ノ相續人ハ自己ノ占有ノミヲ主張スルヲ得ズトシタル判決アルモ誤レリ(註)。

(註) 大正四年六月二三日大判民錄二一輯一〇〇五頁、其判批拙稿法協三四巻四九一頁民事判例研究六九頁。

(ニ) 善意無過失ノ要件ハ占有ノ始ニ存スルヲ以テ足ル。占有ノ承繼アリタル場合ニ承繼人ガ承繼ノ際善意無過失ナリシトキハ前主ガ惡意ナルモ自己ノ善意占有ノミヲ主張スルヲ得ベシ。代理占有ヨリ本人占有ニ移リタル際本人ガ善

意無過失ナリシトキハ自己ノ善意占有ノミヲ主張スルコトヲ得ベキカ、反對ノ判例アルモ余ハ之ヲ得ルモノト解ス(註)。

(註) 大正一一年一〇月二五日大判判例集一卷六〇四頁、大正一一年度判例民法三八五頁(拙評)。

舉證責任

二 舉證責任 占有者ハ所有ノ意思ヲ以テ善意平穩且公然ニ占有ヲ爲スモノト推定セラレ且前後兩時ニ於テ占有ヲ爲シタル證據アルトキハ占有ハ其間繼續シタルモノト推定セラル(六八) 無過失ノ推定ニ付テハ民法ニ規定ナク解釋上多少議論アリ。民法ガ特ニ過失ノミヲ除外シテ推定規定ヲ設ケタルモノナレバ無過失ニ付テハ取得時效ヲ主張スル者ガ舉證責任ヲ負フモノト解スルヲ正當トスベシ(註)。

(註) 同趣旨大正八年一〇月一三日民錄二五輯一八六三頁、大正一〇年一二月九日大判民錄二七輯二一五四頁、大正十年度判例民法六三〇頁(中川氏評釋)三濱氏五八八頁、同物權三二〇頁末弘氏物權二二〇頁。反對富井氏法協三一卷一八五頁。

三 占有ノ喪失ニ因リテ取得時效ハ中斷ス(四六) 之ヲ自然ノ中斷ト謂フ。占有ノ喪失ノ原因ニハ自ラ占有ヲ中止スルト他人ノ爲メニ奪ハル、トアリ。後ノ

中斷

場合ニハ占有回收ノ訴ニ依リテ中斷ヲ妨グルコトヲ得(三〇)。

自然ノ中斷ハ法定中斷ト異ナリ絶對的効力ヲ有ス。占有ノ喪失ニ因リ取得時效ノ要素ガ消滅スルモノナレバナリ。

占有ヲ喪失セザルモ其占有ガ法定ノ要件ヲ缺クニ至リタルトキ即チ所有ノ意思ヲ失ヒ或ハ強暴又ハ隱秘ノ瑕疵ヲ帶ブルニ至リタルトキハ時效ハ中斷セラル、モノト解セザルベカラズ。

四 効力 取得時效ニ因ル所有權ノ取得ハ原始的ナリ。他人ガ權利ヲ有シタルガ故ニ權利ヲ取得スルニハ非ズシテ他人ガ權利ヲ有シタルニ拘ハラズ獨立ニ之ヲ取得シ其結果他人ノ權利ハ消滅スルモノトス。然レドモ不動産ノ登記ニ付テハ登記法上時效取得ニ因ル登記ヲ規定セザルガ故ニ移轉登記ヲ爲スノ外ナシ。

原始取得ナリト云フハ常ニ必ズ其權利ガ無制限ナルベシト云フニ非ズ時效ノ基礎タル事實關係即チ占有ガ他人ノ權利ヲ認メタルモノナルトキハ其繼續ニ因リテ取得セラベキ權利モ亦此制限ヲ伴フモノト解セザルベカラズ。例へ

取得時效ノ効力

ハ不動産ノ占有者ガ隣地ノ所有者ノ通行ヲ許容シツ、占有ヲ爲シタルトキハ時效取得後モ尙此制限ヲ伴フガ如シ(註)。

(註) 同趣旨末弘氏物權五四〇頁、川名氏物權一四四頁、拙著法律行爲乃至時效六七八頁、反對三藩氏物權一九三頁。三藩氏ハ占有者ノ善意惡意ヲ區別スヘキ根據ナシト非難ス。然レドモ第三者ノ權利ヲ認メタル占有ト云フハ占有者ノ意思ニ付テ云フニハ非ズシテ占有ガ客觀的ニ制限セラレタル占有ナリヤ否ヤヲ區別スルナリ。又同氏ハ時效ガ原始取得タル根本ヲ忘レタルモノト非難ス。然レトモ時效ハ事實關係ヲ法律關係ト變ズルモノナルカ故ニ事實關係ソノモノニ制限アラバ法律關係ニモ其制限ガ随伴スルモノト解セザルベカラス。地役權ニ付テハ二九〇條ニ依リテ疑ヲ生セザルモ他ノ物權ニ依リテ制限セラレタル場合ニ問題ヲ生ズ。

### 第三款 所有權以外ノ財産權ノ取得時效

一 要件 所有權以外ノ財産權ヲ自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ平穩且公然ニ行使スル者ハ善意無過失ナリヤ否ヤノ區別ニ從ヒ十年又ハ二十年ノ後其權利ヲ取得ス(三六)。其要件左ノ如シ。

(1) 準占有 自己ノ爲メニスル意思ヲ以テ所有權以外ノ財産權ヲ行使スルヲ準

所有權以外ノ財産  
時權ノ取得

占有ト謂フ(二〇)。平穩公然善意無過失ノ意義ハ前款ニ於テ述べタル所ニ同ジ。

(2) 十年又ハ二十年ノ期間。

二 中斷 準占有ノ喪失(五六)。

三 適用範圍 法典ニハ特別ノ制限ナシト雖モ法律ノ規定又ハ權利ノ性質上取得時效ノ目的ト爲リ得ザルモノアリ。次ノ如シ。

(イ) 不表現又ハ不繼續ノ地役權(三八)。

(ロ) 直接ニ法律ノ規定ニヨリテ成立シ當事者ノ意思表示ニヨリテ成立セザル權利。例ヘバ留置權(二九)元取特權(三〇)ノ如シ。

(ハ) 一向ノ行使ニ因リテ直チニ消滅スベキ權利。蓋シ時效成立ノ要素タル繼續セル事實狀態ヲ成立セシメザレバナリ。例ヘバ取消權、解除權、買戻權、選擇權及ビ一回ノ給付ヲ目的トスル債權ノ如シ。

(ニ) 一定ノ身分ヲ前提トスル權利 例ヘバ扶養ヲ受クル權利。

(ホ) 從タル權利 從タル權利ニハ取得時效ノ目的ト爲ルモノナキニ非ズ。地役權ハ所有權ニ從タル權利ナルモ其表現且繼續ノモノハ時效ニ因リテ取得セラ



レ擔保物權ハ主タル債權ト離レテ取得時効ノ目的タルコトヲ得ズ、債權ト共ニ時効ニ因リテ取得セラル、コトモ實際上殆ンド其ノ場合ヲ想像スルコトヲ得ズ(註)。

(註) 他人ノ物ヲ質入シタル場合ニ債權者ガ善意無過失ナラバ一九二條ニ依リテ質權ヲ取得スベク惡意ナルトキハ時効ニ因リテ質權ヲ取得スルコト理論上アリ得ベシ。三藩氏ハ質權者ガ果實收取權ヲ行フコトヲ以テ質權ノ行使ト解スルニ非ザレバ時効ニ因ル取得ヲ想像シ得ズトス(五八二頁)。然レトモ準占有ニ於ケル權利行使ノ要件ハ斯クノ如ク嚴格ニ解スベキニ非ズ。一九二條ト比較スレバ設例ノ場合ニモ質權ノ行使アリト解シテ可ナリ。

### 第三節 消滅時效

#### 第一款 總說

一 消滅時效(prescriptio extinctiva: prescription extinctive: extinctive prescription: Erlösche-ende Verjährung)トハ權利消滅ノ原因タル時効ヲ云フ。權利其モノノ消滅ヲ來シ訴權ノミノ消滅スルニ非ズ、又權利ヲ消滅セシムベキ抗辯權ヲ發生セシムルモ

消滅時效ノ意義

消滅時效ノ要件

ノニ非ズ。唯時効ノ利益ヲ受クベキ當事者ガ之ヲ拋棄シ又ハ援用セザルコトニ確定シタルトキハ權利ハ初ヨリ消滅セザリシコトトナル。立法論トシテハ特ニ消滅時効ニ付テハ抗辯權ノ成立ニ止ムルヲ適當トスベシ。

二 消滅時効ハ權利ノ不行使ト一定ノ期間ノ經過トヲ以テ其成立要素トス。

(1) 權利ノ不行使 權利ノ不行使トハ權利ヲ行使シ得ルニ拘ラズ之ヲ行使セザル事實ヲ謂フ。故ニ消滅時効ハ權利ヲ行使シ得ル時ヨリ其進行ヲ始ム(一六六條一項)。

權利ヲ行使シ得ル時トハ權利ヲ行使スルニ付テ法律上ノ障礙ノ存セザル時ヲ謂フ。權利者ノ疾病不在等權利ヲ行使スルニ付テ事實上ノ障礙アルモ時効ノ進行ヲ妨グズ。之ニ反シ停止條件又ハ始期附權利ニ對シテハ其條件ノ成就又ハ始期ノ到來スル時迄時効ハ進行ヲ始ムルコトナシ(註二)。

抗辯權ノ附着セル債權ハ抗辯權ヲ行使セラル、トキハ直チニ履行ヲ請求シ得ザル状態ヲ生ズルモノナリト雖モ債權者ガ履行ノ提供其他ノ行為ニ依リテ此状態ノ發生ヲ排除シ得ルモノナルトキハ尙直チニ權利ヲ行使シ得ルモノト解スベキガ故ニ時効ノ進行ヲ妨グルコトナシ。

解約申入又ハ請求ノ後一定ノ期間又ハ相當ノ期間ヲ經テ始メテ給付ヲ請求シ得ベキ時ハ其請求權ニ付テハ何時ヨリ時効ノ進行ヲ始ムルモノト解スベキカ。解釋上多少疑問ナルモ解約權又ハ請求權成立後其一定ノ期間又ハ其相當ノ期間ヲ經過シタル後時効ノ進行ヲ始ムルモノト解スルヲ正當トスベシ(註一)。蓋シ之等ノ權利ノ成立シタル後直チニ請求シ又ハ解約申入ヲ爲シタリトセバ其成立後其期間ヲ經タル後權利ヲ行使シ得ベキ状態ヲ生ズルモノナレバナリ。月賦拂等分割拂ノ債權ニ付キ債務者ガ一回ト雖モ辨濟ヲ怠リタルトキハ直チニ全部ノ辨濟ヲ請求シ得ルモノトスル特約アル場合ニ於テ債務者ガ一回辨濟ヲ怠リタルトキハ直チニ全部ノ債權ニ付キ時効ノ進行ヲ始ムルモノト解スベキカ。債權者ガ全部ノ請求ヲ爲シタル時ニ辨濟期到來シ其時ヨリ時効ノ進行ヲ始ムルモノト解スル見解アルモ余ハ辨濟ヲ怠リタル時ヨリ時効ノ進行ヲ始ムルモノト解ス(註三)。反對論者ハ債務ノ辨濟ヲ確實ナラシムルコトヲ目的トスル特約ガ却テ債權者ノ不利益トナル結果ヲ不當ナリトスルモ早ク請求シ得ルモノトシタルガ爲メニ早ク消滅スルコトアルハ時効制ヲ設ケタル當然ノ

結果ナリ。

不作爲ノ債權ニ付テハ違反行爲アリタル時ヨリ時効ノ進行ヲ始ムルモノトスル見解ト違反行爲ヲ必要トセザルモノト解スル見解トアリ。我民法ハ獨逸民法(一九八)ノ加ク特別ノ規定ヲ設ケザルニ依リ違反行爲アルマデ時効ノ進行ヲ始メザルモノト解スルノ理由ニ稍乏シト雖モ違反行爲ナキニ依リ權利者ガ之レニ信賴シテ何等ノ行爲ヲモ爲サザル間ニ其債權ガ時効ニ因リテ消滅スルモノト解スルハ結果ニ於テ頗ル不當ナルガ故ニ違反行爲ナキ間ハ債權行使セラレツ、アルモノト解シ隨テ違反行爲アリタル時ヨリ時効ノ起算點ト解スルヲ正當トスベシ。

權利ヲ行使シ得ル時ノ意義ニ付テ特別規定アルトキハ固ヨリ之ニ從フ(二九)

(註一) 同趣旨大正四年三月二四日大判民錄二一輯四三九頁、不確定期限附債權ニ付キ期限到來ノ時ヨリ時効進行シ債權者カ其到來ヲ知ルト否トナ問ハザルモノトス。

(註二) 同趣旨大正三年三月一二日大判民錄二〇輯一五二頁、三藩氏五九九頁。

(註三) 同趣旨大正七年八月六日大判民錄二四輯一五七〇頁(三藩氏ハ此判決ヲ自説ト同趣旨ナル知ク引用スルモ誤レリ)。反對富井氏六八〇頁、三藩氏六〇〇頁。

(2) 一定ノ期間 其期間ノ長短ニ付テハ詳細ナル規定アリ。各種ノ權利ニ付テ後ニ述ブ。

三 消滅時效ト取得時效トガ其性質及ビ要件ヲ異ニシ取得時效ノ結果從來ノ權利ノ消滅スルハ消滅時效ニアラザルコト上ニ述ベタルガ如シ。故ニ一定ノ物ニ付テ始期附又ハ停止條件附權利ヲ有スル者ハ未ダ其權利ノ行使ヲ爲シ得ザルモノニシテ之ニ付テ消滅時效ノ進行スルコトナシト雖モ其目的物ニ付テ第三者ノ爲メニ取得時效ノ進行シ又完成スルコトヲ得ルハ言フ俟タザル所トス(條一六六)。然ルニ若シ第三者ノ爲メニ取得時效ノ完成スルトキハ始期附又ハ停止條件附權利者モ亦其權利ヲ喪フノ結果ト爲ルベキガ故ニ民法ニ特ニ規定ヲ設ケ之等ノ權利者ハ取得時效ヲ中斷スルガ爲メニ何時ニテモ占有者タル第三者ノ承認ヲ求ムルコトヲ得ルモノトス(二項但書)。之レ始期附又ハ停止條件附權利ヲ保存スルガ爲メニ一ノ中斷方法ヲ認メタルニ外ナラズ。

### 第二款 債權ノ消滅時效

債權ノ消滅時效ノ原則

一 債權ハ十年間之ヲ行ハザルニ因リテ消滅ス(條一六七)。債權ノ時效期間ヲ他ノ財産權ニ比シテ短縮シタルハ其行使ガ比較的容易ナルノミナラズ日常頻繁ニ生ズルモノニシテ法律關係ヲ確定スルノ必要顯著ナレバナリ。債權ヲ行ハズト謂フハ債權ノ内容ヲ實現シ給付ヲ爲サシメザルコト是ナリ。假令履行ノ請求ヲ爲スモ履行セシメザルトキハ只一時中斷ノ效力ヲ生ズルニ止マリ消滅時效成立ノ要素ヲ失ハシムルコトナシ。一部ノ辨濟ヲ爲サシメタルトキハ一部ナリト認メテ辨濟セシメタル場合ニハ債務ノ承認トシテ時效中斷ノ效力ヲ生ズ。

債權ト云フハ第六十八條乃至百七十四條其他特別ノ規定(商二八)チキ一切ノ債權ヲ包含ス。其成立原因ノ法律行為タルト否トヲ問ハズ又判決ニ依リテ確認セラレタルト公正證書ニ作成セラレタルト否トヲ分タズ又主タル債權タルト從タル債權タルトヲ問ハズ。然レドモ物上請求權ハ之ヲ包含セザルモノト解ス。此最後ノ點ニ付テハ後ニ述ベシ。

二 定期金債權ノ時效期間ハ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年、最後ノ辨濟期ヨリ十

定期金債

性質  
年ナリ(八條六)

(1) 定期金債權トハ一定又ハ不定ノ期間金錢其他不特定物ノ給付ヲ定期ニ受クルコトヲ目的トスル債權ヲ云フ。其特質ハ定期給付ヲ反覆スルコト及ビ此定期給付ノ債權ヲ生ズベキ基本タル債權アルコト是ナリ。定期金債權ト謂ヘド其給付セラルベキ物ハ必ラズシモ金錢ナルコトヲ要セズ又其存續期間ノ確定セルト否トヲ問ハズ唯定期給付ヲ反覆スベキ期間アルコトヲ要ス。

(イ) 一定ノ期間ノ經過スルニ從ツテ一定ノ給付ヲ爲スベキ債務ヲ生ズルコトハ法文ニ定期トイフ所以ナリ。而シテ其每期ノ債權ヲ生ズルコトハ當該債權ノ性質上之ヲ必要トスルコトヲ要スルモノニシテ普通ノ債權ニ付キ年賦拂又ハ月賦拂ノ特約ヲ爲スモ定期金債權トナルニアラズ(註)。

(註) 同趣旨、明治四〇年六月一三日大判、民錄一三輯六四三頁、大正二年九月二二日東地判、最近判例集一三卷七八頁、三浦氏六〇三頁、曄道氏、五四五頁、拙著法律行為乃至時效七〇六頁。月賦拂等ノ場合ニハ其每期ニ辨濟スヘキ部分ニ付キ一部ツツ時効ニ罹ルモノトス。反對中島氏九〇一頁、川名氏三〇九頁。

(ロ) 每期ノ給付 (Annuity) ヲ目的トスル債權ノ集合ノ外ニ此債權ヲ生ズルコトヲ

目的トスル基本タル債權アリ。此基本債權ヲ定期金債權ト謂フナリ。例ヘバ毎年金一千圓ヲ受クベキ終身年金債權ハ一年毎ニ金一千圓ノ債權ヲ生ズベキ一個ノ債權ナルガ如シ。

每期ノ債權ト定期金債權トノ關係ニ付テハ二個ノ見解アリ。基本權ノ成立ト共ニ每期ノ債權(定期給付ヲ目的トスル債權)モ亦成立シ期間ノ經過ニ因リテ其債權ノ辨濟期到來スルモノト解スルモノト、期間ノ經過ニ因リテ每期ノ債權ヲ生ズルモノト解スル見解ト是ナリ。終身定期金等ニ在リテハ何時マデ每期ノ債權ヲ生ズルヤ否ヤ不明ナルヲ以テ每期ノ債權ハ期間ノ經過ニ因リテ成立スルモノト解スルヲ正當トスベシ(註)。

(註) 反對中島氏、九〇一頁。

(ハ) 定期金債權ノ例ハ終身年金、有期年金、定期拂ノ扶養料、恩給、地代債權等ナリ。利息債權ハ其每期ニ支拂フベキモノハ第六十九條ノ規定スル定期給付ヲ目的トスル債權ニシテ定期金債權ニアラズ又每期ノ利息ヲ生ズベキ基本タル債權ハ性質上定期金債權ト異ルコトナキモ元本返還ノ債權ト離ルベカラザル關

例

係ニ在リ獨立シテ時効ニ罹ルベカラザルモノナルガ故ニ第六十八條ノ規定ハ之ニ適用ナキモノト解セザルベカラズ。永小作料ノ支拂ヲ目的トスル債權亦然リ。賃借料支拂ヲ目的トスル債權ニ付キ余ハ嘗テ反對ノ見解ヲ採リタルモ貸金支拂ノ債務ハ貸貸借ノ要素ナルガ故ニ貸貨物返還ノ債權ト離レテ時効ニ罹ルモノト解スルハ正當ニアラズ隨ツテ第六十八條ハ此債權ニ適用ナキモノト解スルヲ正當トスベシ(註)。

(註) 同趣旨、三浦氏六〇四頁、中島氏九〇一頁、曄道氏五四五頁。反對、川名氏三〇九頁拙著法律行爲乃至時効七〇七頁。

時効期間

(2) 定期金債權ノ時効期間ニ二種アリ。第一回ノ辨濟期ヨリ二十年間之ヲ行ハザリシトキハ時効ニ因リテ消滅シ又假令其二十年間之ヲ經過セザルモ最後ノ辨濟期ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス。

(イ) 第一回ノ辨濟期ニハ唯第一回ノ給付ニ付テ權利ヲ行使シ得ルニ止マリ定期金債權ソノモノニ付テハ權利ヲ行使シ得ルニアラザルモ若シ定期金債權全部ニ付テ權利ヲ行使シ得ル時ニ至リテ始メテ時効ガ進行スルコト、セバ最後ノ

第一回ノ辨濟期ノ意義

辨濟期マデ進行ヲ始メザルノ結果トナリ終身或ハ永年間存續スベキコトヲ常トスル定期金債權ニ在リテハ不當ナル結果ヲ生ズルヲ以テ時効期間ヲ倍加シテ二十年トスルト同時ニ第一回ノ辨濟期ヨリ進行ヲ始ムルコト、シタルナリ。佛蘭西民法(三二六)ハ定期金債權成立ノ時ヨリ三十年トシタルガ、我民法ハ少クトモ一部ニ付テハ權利ヲ行使シ得ル時ヨリ時効ヲ進行セシムルヲ適當トシ第一回ノ辨濟期ヨリ二十年トシタルナリ。

第一回ノ辨濟期ノ意義ニ付テ二説アリ。之ヲ文字通ニ第一回ノ辨濟期ト解スル見解ト延滞シタル最初ノ辨濟期ト解スルモノト是ナリ。前説ヲ採ルモ每期ノ辨濟ハ債務承認トシテ時効中斷ノ效力ヲ生ズルガ故ニ兩説ハ結果ニ於テ多ク異ラザルモ既ニ時効期間ヲ倍如セルガ故ニ文字通ニ第一回ノ辨濟期ヨリ時効ノ進行ヲ始ムルモノト解スルヲ正當ト信ズ(註)。

(註) 同趣旨、川名氏三一〇頁、三浦氏六〇六頁、長島氏六六五頁、拙著法律行爲乃至時効七〇八頁。反對、富井氏六八六頁、松岡氏五九四頁、岡松氏、理由四三九頁。兩説ノ差異ハ何ヘハ第二回ノ辨濟ヲ爲シタル後辨濟ナシトセバ前説ニ依レバ第二回ノ辨濟ノ終

了シタル時ニ中斷事由終了シタルモノニシテ此時ヨリ時效進行スヘク後説ニ依レバ第三回ノ辨濟期ヨリ進行スルコトトナルガ如シ。

(ロ) 最後ノ辨濟期ヨリ十年ヲ經過スルトキハ每期ノ給付ヲ目的トスル債權ハ全部消滅スルヲ以テ定期金債權ソノモノモ亦消滅セザルヲ得ズ、殊ニ每期ノ債權ノ期間ガ年又ハ之ヨリ短キトキハ第六十九條ニ依リ最後ノ辨濟期ヨリ五年ヲ經過スルニ因リテ債權ハ全部時效ニ罹ルベシ。此點ヨリ見レバ民法ガ特ニ最後ノ辨濟期ヨリ十年間債權ヲ行ハザルトキ消滅スベキコトヲ定メタルハ蛇足ノ感アリ十年ヨリ短キ期間存續スベキ定期金債權ニ付テ疑問ヲ生ズルコトヲ虞レ注意的ニ規定セルニ過ギズ。

(3) 定期金ノ債權者ハ時效中斷ノ證ヲ得ル爲メ何時ニテモ其債務者ノ承認書ヲ求ムルコトヲ得(條二項)。每期ノ辨濟ハ債務承認トシテ時效中斷ノ效力ヲ有スルモ其辨濟アリタルコトノ證據材料タル受取證書ハ債務者ノ手ニ存スルモノニシテ債權者ハ證據方法ヲ有セザルコトヲ常トスルガ故ニ此證據方法ヲ得ルガ爲メニ債務者ノ承認書ヲ求メ得ルモノトシタルナリ。

時效中斷ノ證

定期給付ノ債權

短期時效一般

三 年又ハ之ヨリ短キ期間ヲ以テ定メタル金錢其他ノ物ノ給付ヲ目的トスル債權ノ時效期間ハ五年トス(九條六)。

(1) 民法第六十九條乃至第七十四條ハ特殊ノ債權ニ付キ短期ノ消滅時效ヲ規定ス。日常ノ取引上頻繁ニ發生シ、債權額通常多額ナラザル債權ニ於テハ領收證ノ交付セラレザルコトアリ又交付セラル、モ永ク保存セラレザルコト尠カラズ、法律關係ノ速ニ不明瞭トナルヲ免レザルヲ以テ民法ハ其時效期間ヲ短クシ法律關係ノ確定ヲ圖リタルナリ。其趣旨ハ大體ニ於テ正當ナルモ少額債權ガ債權者ノ生活上必要ナル種類ノ債權ニ付テハ簡易ナル訴訟手續例ヘバ少額裁判所ヲ設ケテ一面迅速容易ニ債權ヲ取立ツル方法ヲ講ゼザルベカラズ。第七十四條ノ規定スル雇人ノ給料、勞力者ノ賃金等ニ付テ此必要特ニ顯著ナリ。

(2) 五年ノ短期時效ニ罹ルベキ第六十九條ノ債權ハ金錢其他ノ不特定物ノ定期給付ヲ目的トスル債權ニシテ其期間ガ一年以下ナルモノ是ナリ。例ヘバ毎年、毎月、每半歲等ニ支拂フベキ賃借料、地代、永小作料、扶養料、年金、俸給、給料ノ如

五年ノ時效

シ、但シ月以下ノ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料ハ第七十四條第一號ニ該當スルヲ以テ第六十九條ノ適用ヲ受ケズ。

(イ) 定期給付ヲ目的トスル債權ナリ。年又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタルトイフ字句ノミニ依ルトキハ定期給付ヲ目的トセズ單ニ辨濟期ガ一年以内ニ到來スベキ債權ヲモ包含スルガ如キモ此債權ニ付キ特ニ短期時効ヲ定メタルハ定期ニ反覆セラレ時期ヲ經過スル毎ニ債權ヲ生ジ隨ツテ速ニ整理セザレバ遞次堆積スベキコトヲ理由トスルモノナルガ故ニ定期給付ヲ目的トスルモノノミヲ指稱スルモノト解セザルベカラズ(註一)。隨ツテ又一定額ノ債權ニ付キ年賦又ハ月賦等分割拂ヲ定メタル場合ニ於テモ其每期ノ債權ハ第六十九條ノ五年ノ時効ニ罹ルニハアラズシテ通則ニ依リ十年ノ時効ニ罹ルモノトス(註二)。金錢債務ノ不履行ニ因ル損害賠償ハ遲延利息ノ名ヲ以テ呼バル、モ唯其額ガ利率ニ依リテ計算セラル、ニ止マリ固ヨリ一定時期ヲ經過スル毎ニ支拂フベキモノニアラザレバ第六十九條ノ適用ヲ受ケズ(註三)。

(註一) 同趣旨大正一〇年六月四日大判、民錄二七輯一〇六二頁、大正十年度判例民法二八〇頁(東氏評釋)及ヒ同處引用ノ判決、學說上モ通説ナリ。

(註二) 同趣旨、明治三十七年三月二十九日大判、民錄一〇輯三三五頁、三藩氏六〇八頁、拙著法律行為乃至時効七一三頁等。反對、中嶋氏九〇八頁。

(註三) 同趣旨、大正七年一〇月九日大判、民錄二四輯一八八六頁、明治四二年一一月六日民錄一、五輯八五一頁等。

(ロ) 金錢其他ノ不特定物ノ給付ヲ目的トス。法文ニハ金錢其他ノ物ト謂ヒ特ニ不特定物ト謂ハザルモ期間ノ經過ニ因リ給付ノ數量ガ遞次増加スベキモノナレバ特定物タルベカラザルハ明ナリ。

四 三年ノ時効 時効期間ヲ三年トスル債權次ノ如シ。

- (1) 醫師、產婆及ビ藥劑師ノ治術、勤勞及ビ調劑ニ關スル債權(一七〇)。
- (2) 技師、棟梁及ビ請負人ノ工事ニ關スル債權(一七一)。(註一) 其時効ハ其負擔シタル工事終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス。
- (3) 辯護士、公證人及ビ執達吏ガ其職務ニ關シテ受取リタル書類ニ付テノ責任(七一)。(註一) 其時効ハ辯護士ニ付テハ事件終了ノ時ヨリ又公證人、執達吏ニ付テハ其職務執行ノ時ヨリ之ヲ起算ス。

書類ノ現存スル場合ニ於テ所有權ニ基ク物上請求權モ亦消滅時効ニ罹ルヤ

三年ノ時効  
大正六年一月五日  
大正六年一月五日  
大正六年一月五日

否ヤハ一般ニ物上請求權ガ消滅時效ニ罹ルヤ否ヤニ依リテ決セラレベキ問題ナリ(後述)。

二年ノ時

五 二年ノ時效 時效期間ヲ二年トスル債權次ノ如シ。

(1) 辯護士、公證人及ビ執達吏ノ職務ニ關スル債權(二七條)。此時效ハ其原因タル事件終了ノ時ヨリ之ヲ起算ス但其事件中ノ各事項終了ノ時ヨリ五年ヲ經過シタルトキハ右ノ期間内ト雖モ其事項ニ關スル債權ハ消滅ス。

辯護士ノ職務ニ關スル債權トハ辯護士法第一條ニ規定セル職務即チ裁判所ニ於テ行ハルベキ辯護士ノ職務ヨリ發生スル債權ヲ指稱シ辯護士ガ單純ニ裁判外ニ於テ債權ヲ取立ツベキコトノ委任ヲ受ケタルニ因リ生ジタル報酬請求權ハ之ヲ包含セザルモノトシタル判決アリ(註)。然レドモ裁判外ノ和解、定款又ハ鑑定書ノ起草ノ如ク通常辯護士ノ業務行爲トシテ認メラル、行爲ヲ爲ス場合ヲモ包含スルモノト解スルヲ正當トスベシ。裁判外ノ行爲ニ基ケル債權ナルガ故ニ特ニ長ク存續セシムベキ何等ノ理由モナケレバナリ。

(註) 明治四〇年五月一四日大判、民錄一三輯四九五頁、大正八年三月五日大判、民錄二五

轉四〇二頁。

一年ノ時

(2) 生産者、卸賣商人及ビ小賣商人ガ賣却シタル產物及ビ商品ノ代金債權(一七三條)。消費者ニ賣リタル場合ト商人ニ賣リタル場合トヲ包含ス。

(3) 居職人及ビ製造人ノ仕事ニ關スル債權(一七三條)。居職人ト謂フハ工場職工ニ對スル者ニシテ裁縫師、理髮師、鍛冶職、洗濯業者ノ如ク自己ノ住居又ハ店舗ニ在リテ他人ノ爲メニ仕事ヲ爲ス者ナリ。製造人トハ物ニ加工シテ他ノ物ヲ製作スルコトヲ業トスル者ヲ謂フ、靴屋、建具職、家具製造人等ノ如シ。

(4) 生徒及ビ習業者ノ教育、衣食及ビ止宿ノ代料ニ關スル校主、塾主、教師及ビ師匠ノ債權(一七三條)。

六 一年ノ時效 一年ノ時效ニ罹ルベキ債權次ノ如シ。

(1) 月又ハ之ヨリ短キ時期ヲ以テ定メタル雇人ノ給料(一七四條)。期間ガ一个月ヨリ一年マデナルトキハ第六十九條ニ從ヒ、一年ヲ超ユルトキハ第六十七條ノ通則ニ依ル。

(2) 勞力者及ビ藝人ノ賃金竝ニ其供給シタル物ノ代價(一七四條)。勞力者トハ大工、



- 左官、植木職、看護婦等ヲ謂ヒ、藝人トハ俳優、講談師、手品師、相撲等ヲ謂フ。
- (3) 運送貨條一七四。商法謂フ運送人商三三ノ行爲ナルヲ要セズ。
- (4) 旅店、料理店、貸席及ビ娛樂場ノ宿泊料、飲食料、席料、木戸錢、消費物代價並ニ立替金條一七四。
- (5) 動産ノ損料條一七四。衣服、寢具、葬具、書籍等動産ノ貸貸借ニ於ケル借貸ヲ謂フ。必ズシモ貸附ヲ業トスル者ノ行爲ニ因ルコトヲ要セズ。

### 第三款 債權以外ノ財産權ノ消滅時效

一般財産  
權ノ消滅  
時效

物上請求  
權ハ時効  
ニ罹ルカ

- 一 債權又ハ所有權ニ非ザル財産權ハ二十年間之ヲ行ハザルニ因リテ消滅ス條一七六。
- (1) 所有權ハ消滅時效ニ罹ラザルコト疑ヲ容レズ唯取得時效反面ノ效果トシテ消滅スルコトアルノミ。所有權ヨリ生ズル物上請求權即チ所有物返還請求權及ビ妨害除去請求權ハ消滅時效ニ罹ルヤ否ヤ。余ハ嘗テ積極說ヲ採リタルコトアルモ條一七六後改メテ消極說ヲ採レリ條一七六。蓋シ物上請求權ハ純然タル債權

ニハ非ズシテ債權ニ準ズベキ請求權ト解スベキガ故ニ債權ニ關スル規定ハ唯物上請求權ノ性質ガ之ヲ許ス範圍内ニ於テノミ之ヲ物上請求權ニ準用スベク、而シテ消滅時效ノ點ニ付テハ所有權ガ消滅時效ニ罹ラザル關係上之ヨリ生ズル物上請求權モ亦消滅時效ニ罹ラザルモノト解スルコト時効制ノ本旨ニ適スベク又物上請求權ハ所有權ノ圓滿ナル狀態ガ害セラル、狀態ノ存續スル間ハ常ニ新ニ發生スルモノト解スベキコト夫ノ相隣權或ハ共有物分割請求權ト同様ナルガ故ニ消滅時效ニ罹ラザルモノト解スルヲ正當トスルナリ。

(註一) 拙著法律行爲乃至時效七〇二頁、中嶋氏九〇〇頁、川名氏物權六四頁。  
 (註二) 同趣旨、大正五年六月二三日大判、民錄二二輯一一六一頁、拙稿判批法協三五卷一  
 一六頁、民事判例研究八三頁、土地所有權ニ基ツク登記請求權ニ付テモ同シ、大正五年  
 四月一日、民錄二二輯六七四頁、大正一一年八月二一日大判、判例第一卷四九三頁、大正  
 十一年度判例民法三一頁(平野氏評釋)。但シ登記不能ニ基ク損害賠償請求權ハ固  
 ヲリ債權ナルガ故ニ債權ノ消滅時效ニ罹ル、大正七年五月一三日大判、民錄二四輯九  
 五七頁、拙稿判批、法協三六卷一八八四頁、民事判例研究九四頁。

形成權ノ  
消滅時效

(2) 形成權、形成權ハ物權債權ト性質ヲ異ニシタル特殊ノ權利ナルコト近時一

般ニ認メラル、所ナリ。近時大審院ハ形成權ニ付テ此性質ヲ認ムルニ拘ハラズ尙此權利ハ特定ノ人ニ對シテ存スル權利ナルコトヲ理由トシテ之ヲ債權ト同視スベキモノトシ隨ツテ十年ノ時効ニ罹ルベキモノトス(註一)。然レドモ債權所有權以外ノ財産權トスレバ法文上二十年ノ時効ニ罹ルベキモノト解スルヲ當然トスルガ故ニ形成權ニ付テ特ニ債權ト同一ノ時効ニ罹ルベキモノト解スルガ爲メニハ債權ニ付テ比較的短期ノ時効ヲ認ムルノ理由ガ形成權ニ付テモ存在スルコトヲ理由トセザルベカラズ。然ルニ均シク形成權ト稱スルモ其内容ハ形成セラルベキ法律關係ノ種類ニ依リテ決シテ同一ニアラズ其法律關係ヲ速ニ確定スベキ必要アリヤ否ヤノ點モ亦隨ツテ決シテ同一ニアラズ單ニ特定人ニ對スル權利ナリト謂フコトハ消滅時効ノ期間ヲ定ムルノ點ニ於テ同一ノ原則ニ從フベキ理由タルコトヲ得ズ。故ニ余ハ形成權ノ中ニ就キ特ニ其内容上債權ト同一ノ時効ニ罹ラシムベキ理由アルモノヲ除キ一般ニハ第六百十七條第二項ノ原則ニ依リ二十年ノ時効ニ罹ルモノト解スルヲ正當ト信ズ(註二)。

消滅時効  
適用時  
受ノ適時  
財産ザル  
權

(註一) 大正四年七月一三日大判民錄二一輯一三八四頁、大正一〇年三月五日大判民錄二七輯四九三頁其評釋大正十年度判例民法九六頁(平野氏)。

(註二) 第三者ノ爲メニスル契約ニ於テ第三者カ受益ノ意思表示ヲ爲スベキ權利ニ付キ余ハ十年ノ時効ニ罹ルベキモノトス、拙著日本債權法各論增訂、一八六頁。平野氏(前掲)ハ債權ニ類似スル場合ト寧ロ物權的性質ヲ有スル場合トヲ區別スベキモノトス。

二 所有權以外ノ財産權ニシテ其性質上消滅時効ニ罹ラザルモノアリ。次ノ如シ。

(1) 占有權 占有權ハ占有ノ事實存續スル間ハ常ニ存在シ、占有ノ事實消滅スレバ當然消滅スベキモノナレバナリ。

(2) 一定ノ法律關係ニ當然伴フベキ權利 相隣權(二〇九)又ハ共有物分割權(二五)ノ如ク相隣關係又ハ共有關係ニ當然伴フベキ權利ハ此關係ト終始スベキモノニシテ此關係ノ存續スル間ハ常ニ新ニ發生スルモノト見ルベク消滅時効ニ罹ルコトナシ。

(3) 擔保物權 擔保物權ハ債權ニ從タル權利ナルガ故ニ債權ガ消滅時効ニ罹ル

財產權利以外ノ時效

トキハ當然消滅スベキモ擔保物權ノミ債權ニ先テテ消滅時効ニ罹ルコトナキヲ原則トス。但シ抵當權ニ關シテハ第三百九十六條ノ特則アリ。

(4) 抗辯權 抗辯權ハ請求ヲ俟ツテ始メテ行使シ得ベキモノナルガ故ニ消滅時効ニ罹ルコトナシ。

三 財產權以外ノ權利ハ消滅時効ニ罹ラザルヲ原則トス、其消滅時効ニ罹ルハ特則アル場合ニ限ル。次ノ如シ。

(1) 隱居取消權(七五九條)相續回復ノ請求權(九六六條)相續ノ承認又ハ拋棄ノ取消權(一〇二二條)。

(2) 金錢的價值ヲ有セザル債權 此ノ如キ債權ハ財產權タル性質ヲ有セザルモノト解スルヲ正當トス(本卷上卷二七頁)。然レドモ其一般債權ト同一ノ時効ニ罹ルベキハ固ヨリ言フ俟タズ。

# 日本民法總論終

昭和拾陸年拾月拾一日

終

640  
14

## 條文索引

(ゴナツク字ノ頁數ハ主タル敘述ノ場所ナルヲ示ス)

第一條	四三頁以下	第二項	八六頁以下、九二頁
第二條	四頁、四七頁以下	第三項	八七頁
第三條	五五頁以下、五六八頁	第一三條	八〇頁、八七頁、四九三頁
第四條	五七頁以下、四九五頁	第一四條	八九頁以下、四八五頁、五〇一頁
第五條	六〇頁、六二頁以下	第一項	二五二頁
第六條	六〇頁	第二項	九五頁
第七條	六五頁以下	第一五條	九六頁
第八條	六九頁以下、七一頁、七六頁	第一六條	六八頁、九二頁以下
第九條	三七頁以下、四九五頁	第一七條	九三頁以下、九六頁
第一〇條	七一頁、七六頁、四九三頁	第一八條	九二頁以下、九六頁
第一一條	七八頁以下	第一九條	九七頁以下、四七〇頁、四九七頁、五九九頁
第一二條	八一頁以下	第二項	九八頁、一〇一頁
第一項	八二頁以下、四九五頁	第三項	一〇二頁以下
第二項	八九頁、九二頁、二五二頁	第四項	八七頁、九五頁、九九頁、一〇一頁以下
但書		第一〇條	一〇二頁以下
		第一一條	一〇二頁以下
		第一二條	一〇四頁以下、二八〇頁
		第一三條	一〇九頁
		但書	一〇九頁以下

條文索引

第二四條	.....	一〇〇頁
第二五條	.....	一〇七頁、一一二頁以下、四〇九頁
第一項	.....	一一三頁以下
第二項	.....	一一五頁、四三八頁
第二六條	.....	七四頁、一一三頁、四三八頁
第二七條第一項	.....	一一六頁
第二項	.....	一一六頁以下
第三項	.....	一一七頁
第二八條	.....	一一六頁
第二九條第一項	.....	一一七頁
第二項	.....	一一八頁
第三〇條	.....	一〇七頁、一一九頁以下、五六八頁
三一條	.....	四六頁、二〇〇頁以下
三二條	.....	一一四頁以下、四九三頁
第一項但書	.....	一一五頁以下
第二項	.....	一一六頁以下
三三條	.....	一一三頁、一五六頁以下
三四條	.....	一一三頁、一五六頁、一五一頁
三五條	.....	一五二頁、一五三頁、一五七頁
三六條	.....	四八頁以下、一九二頁、二二八頁以下
三七條	.....	一五九頁以下
三五號	.....	四三八頁
第三八條第一項	.....	一九八頁、二〇〇頁、二〇二頁以下
第二項	.....	二〇三頁、二〇五頁
第三九條	.....	一六四頁以下
第一項	.....	七四頁
第二項	.....	一一九頁以下
第四〇條	.....	一六五頁、二〇四頁
第四一條	.....	一六六頁以下
第四二條	.....	一六八頁
第四三條	.....	四頁、一三三頁、一三六頁以下、一四二頁
第四四條	.....	一三三頁以下、一四四頁以下、二二五頁
第一項	.....	一四五頁、三九九頁
第二項	.....	一四九頁以下、一八三頁
第四五條	.....	一三六頁、五六八頁
第一項	.....	一七〇頁
第二項	.....	一七〇頁以下
第三項	.....	一七〇頁
第四六條第一項	.....	一七〇頁、一八六頁、二〇四頁
第二項	.....	一七一頁、二〇三頁
第四七條	.....	一七〇頁、二〇四頁
第四八條	.....	一七一頁、二〇四頁
第四九條	.....	二〇〇頁以下
第五〇條	.....	一七二頁以下

第五一條第一項	.....	一八三頁以下、五六八頁
第一項	.....	一八五頁以下
第五二條第一項	.....	一七七頁、一八〇頁
第二項	.....	一七八頁、一八二頁、一九〇頁
第五三條	.....	一七七頁以下、一八〇頁、一八二頁、四〇六頁
但書	.....	一七八頁以下
第五四條	.....	一七九頁
第五五條	.....	一四六頁、一八一頁以下
第五六條	.....	一四六頁、一七五頁、一八七頁以下
第五七條	.....	一四六頁、一八〇頁、四三三頁
後段	.....	一八〇頁以下
第五八條	.....	一八八頁
第五九條	.....	七四頁、一八九頁以下
第四號	.....	一九三頁
第六〇條	.....	一八六頁、一九二頁、一九三頁以下
第六一條第一項	.....	一八六頁、一九三頁
第二項	.....	一九三頁
第六二條	.....	一九四頁以下、二七八頁
第六三條	.....	一九一頁以下、一九二頁
第六四條	.....	一九七頁
第六五條第一項	.....	一九七頁
第二項	.....	一九八頁
第六六條	.....	一九七頁、一九八頁
第六七條第一項	.....	一九一頁、一九七頁以下
第二項	.....	二〇五頁以下
第六八條	.....	二〇六頁
第一項第四號	.....	二〇九頁以下
第二項	.....	二〇六頁
第六九條	.....	一九八頁、二二二頁、四九三頁
第七〇條	.....	一八六頁、二二〇頁以下
第七一條	.....	二〇六頁、二二二頁
第七二條第一項	.....	二二四頁
第二項	.....	二二四頁
第三項	.....	二二四頁
第七三條	.....	二〇七頁以下
第七四條本文	.....	一八六頁、二二五頁
但書	.....	二二五頁
第七五條	.....	一四六頁、二二六頁
第七六條	.....	二〇七頁、二二六頁、四三八頁
第七七條	.....	一七二頁
第一項	.....	二二三頁、二二四頁
第七八條第一項	.....	二二五頁、二二七頁以下
第七九條第一項	.....	二二八頁

第二項	二二八頁以下、二一九頁
第三項	二一九頁
第八〇條	二二二頁以下
第八一條第一項	二二二頁以下
第二項	二二三頁以下
第三項	二二〇頁、二二三頁
第八二條	二〇六頁以下
第八三條	二二五頁
第八四條	二二一頁以下
第一號	一六九頁、一八三頁
第二號	一八四頁
第三號	二〇六頁
第五號	一八六頁、二一一頁
第六號	二一九頁
第八五條	二三五頁以下
第八六條第一項	二五一頁以下
第二項	二五一頁以下
第三項	二二六頁
第八七條第一項	二五六頁以下
第二項	二五九頁
第八八條第一項	二六〇頁以下
第二項	二六三頁以下
第八九條	八二頁、二八〇頁
第一項	二六二頁以下
第二項	二六四頁
第九〇條	三〇九頁以下
第九一條	三〇七頁以下
第九二條	六頁、七頁、八頁、三二八頁、三二九頁以下
第九三條	二八八頁、三三九頁、三四六頁以下
但書	三四八頁以下
第九四條第一項	二八八頁、三五二頁以下
第二項	三四九頁、三五二頁以下、四八六頁
第九五條本文	二八八頁、三四〇頁、三五七頁以下
但書	三六五頁、四八六頁
第九六條	三二六頁
第一項	三六九頁以下、三七七頁以下、三九五頁
第二項	三七六頁以下
第三項	三七五頁以下
第九七條第一項	三八二頁以下、四四七頁
第二項	三八七頁
第九八條本文	五八頁、七五頁、三八九頁以下、四六九頁
但書	三九〇頁
第九九條	一七八頁、三九一頁以下、三九八頁、三九九頁
第一〇〇條	一七八頁、四三五頁

本文	四〇二頁以下
但書	四〇一頁以下
第一〇一條第一項	一七八頁、三九四頁以下、四九八頁
第二項	三九六頁以下
第一〇二條	七五頁、一七八頁、三九九頁
第一〇三條	四二六頁以下、四三九頁
第一〇四條	四一八頁以下
第一〇五條	四一三頁、四三六頁
第一項	四三三頁
第二項	四三三頁
第一〇六條	一八一頁以下、四一三頁
第一〇七條	四三三頁以下、四三一頁
第一項	四三三頁以下
第二項	四三五頁以下、四三七頁
第一〇八條本文	一六三頁、一八〇頁、二九二頁、四二二頁以下
但書	四二二頁
第一〇九條	四一五頁、四四六頁以下、四五二頁、四五五頁
第一一〇條	四四六頁、四四八頁、四五二頁以下
第一一一條	一八六頁
第一一二條	四三八頁以下、四四二頁
第一項	四三八頁以下、四四二頁
第二項	四四〇頁以下、四四三頁
第一一二條	四四三頁、四四八頁、四五二頁、四五七頁以下
第一一三條	一七八頁、二九二頁、四八二頁
第一項	四六〇頁以下
第二項	四六二頁以下
第一一四條	一七八頁、二九二頁、四六八頁以下、四八二頁、五六九頁
第一一五條	一七八頁、二九二頁、四五〇頁、四五八頁、四七一頁以下、四八二頁
第一一六條	一七八頁、二九二頁、四六四頁以下、四八二頁
第一一七條	一七八頁、二七七頁、二九二頁、四三五頁、四八二頁
第一項	四七三頁以下
第二項	四七八頁以下
第一一八條	一七八頁、二九二頁、四八一頁以下
第一一九條本文	四八九頁以下
但書	四九〇頁以下
第二〇條	八二頁、八七頁、四九五頁、四九六頁以下
第二項	九五頁、五〇一頁以下
第二一二條	六八頁、五〇六頁以下
但書	五〇七頁

第一二二條……八二頁、九五頁、五二二頁以下、五一五頁  
 第一二三條……五〇四頁以下、五一七頁  
 第一二四條……四九七頁、五一九頁、五二一頁  
 第一項……五一五頁以下  
 第二項……五一七頁  
 第三項……五一六頁  
 第一二五條……五一八頁以下  
 第一號……六三頁、五一頁  
 第五號……五〇一頁  
 第一二六條……九七頁、五二一頁、五七九頁  
 第一二七條第一項……五二六頁以下、五三六頁以下  
 第二項……五二六頁以下、五三六頁以下  
 第三項……五三七頁  
 第一二八條……五三二頁、五三四頁、五三七頁、五四  
 一頁、五四二頁以下、五四七頁、五四  
 八頁、五五二頁、五五三頁、五六一頁  
 頁以下、五四七頁、五四八頁、  
 第一二九條……五三七頁、五四一頁、五四五  
 頁以下、五四七頁、五四八頁、  
 五五二頁、五五三頁、五六一頁  
 第一三〇條……五三二頁以下、五三五頁  
 第一三一條第一項……五四七頁以下  
 第二項……五四七頁以下

第三項……五二八頁、五四八頁以下  
 第一三二條……四八八頁、五四九頁以下、五五〇頁  
 第一三三條……四八八頁、五五〇頁以下  
 第一三四條……五六頁、五二九頁以下  
 第一三五條……五五五頁以下、五五九頁、五六九頁  
 第一三六條……五六二頁以下  
 第一項……五六三頁  
 第二項……五六四頁  
 第一三七條……五六五頁以下  
 第一三八條……五六九頁  
 第一三九條……五七〇頁  
 第一四〇條……一七〇頁、五七〇頁  
 第一四一條……五七〇頁以下  
 第一四二條……五七一頁  
 第一四三條第一項……五七二頁  
 第二項……五七三頁  
 第一四四條……五八二頁以下  
 第一四五條……五七六頁以下、五八四頁以下  
 第一四六條……五八九頁以下  
 第一四七條……二八七頁、五九三頁以下  
 第一四八條……六〇五頁以下  
 第一四九條……五九四頁以下

第一五〇條……五九六頁以下  
 第一五一條……五九八頁  
 第一五二條……五九八頁以下  
 第一五三條……二七七頁、五九九頁以下  
 第一五四條……六〇一頁以下  
 第一五五條……六〇一頁以下  
 第一五六條……六〇四頁以下  
 第一五七條……六〇六頁以下  
 第一五八條……六〇七頁以下  
 第一五九條……六〇八頁  
 第一六〇條……六〇八頁  
 第一六一條……六〇九頁  
 第一六二條……二五二頁、五六八頁、六一四頁以下  
 第一六三條……二五二頁、六一八頁以下  
 第一六四條……六一六頁以下  
 第一六五條……六一九頁  
 第一六六條第一項……六一九頁  
 第二項……五四六頁、六二四頁  
 第一六七條……二六頁、六三五頁、六三六頁以下  
 第一項……六二五頁  
 第二項……六二五頁以下  
 第一六八條第一項……六二五頁以下  
 第二項……六三〇頁以下

第一六九條……六二七頁、六三〇頁、六三一頁以下、六三五頁  
 第一七〇條……六三三頁  
 第一七一條……六三三頁  
 第一七二條……六三四頁  
 第一七三條第一號……六三五頁  
 第二號……六三五頁  
 第三號……六三五頁  
 第一七四條……六三一頁  
 第一號……六三二頁、六三五頁  
 第二號……六三五頁  
 第三號……六三六頁  
 第四號……六三六頁  
 第五號……六三六頁  
 第一七五條……二四六頁  
 第一七七條……二五二頁、五三八頁  
 第一七八條……二五二頁、五三八頁  
 第一八〇條……四〇〇頁、六一〇頁  
 第一八五條……六一一頁  
 第一八六條……六一一頁  
 第一八九條第一項……二六三頁  
 第二項……二二頁、五〇七頁、五三八頁  
 五七四頁、六一四頁、六二〇頁

第一九三條	五七九頁
第一九五條	五七九頁
第一九六條	五六九頁
第二〇一條	五七九頁
第二〇三條	六一七頁
第二〇五條	六一九頁
第二〇六條	四頁、二六三頁
第二〇七條	四頁、二四四頁、二五二頁
第二〇八條	二四〇頁
第二〇九條	六三九頁
第二一七條	八頁
第二一九條	八頁、六二三頁
第二二八條	八頁
第二三一條第二項	二四〇頁
第二三六條	八頁
第二四〇條	五四二頁
第二四二條	二五七頁
第二四三條	二五七頁
第二四六條	二八〇頁
第二四九條	二四九頁
第二五五條	二二九頁
第二五六條	三〇六頁、六三九頁
第二六三條	八頁
第二六四條	四頁
第二六五條	二六三頁
第二六六條	四〇三頁
第二六八條	八頁
第二六九條	八頁
第二七〇條	二六三頁
第二七一條第四號第五號	五四六頁
第二七七條	八頁
第二七八條	八頁、二八九頁、四八八頁
第二七九條	八頁
第二八三條	六一九頁
第二八四條第二項	六〇六頁
第二九〇條	六一八頁
第二九四條	八頁
第二九五條	六一九頁
第三〇三條	六一九頁
第三四九條	三〇八頁
第三六〇條	二八九頁、四八八頁
第三七八條	五九八頁
第三八一條	五九八頁
第三八二條	五九七頁以下

第三八七條	四〇七頁
第三九一條	五九七頁以下
第三九九條	六四〇頁
第四〇〇條	二七頁
第四〇一條	二四八頁、三〇四頁
第四〇七條	四七三頁
第四一〇條	四八八頁
第四一二條第三項	二七七頁、二八七頁
第四一四條第二項但書	一九四頁
第四一六條	四七六頁
第四二三條	三五頁、四〇七頁、五〇一頁、五八八頁
第四二四條	五〇四頁
第四二六條	五七九頁
第四二七條	二四九頁
第四三四條	六〇六頁
第四三九條	五八八頁
第四四六條	八三頁
第四五〇條	一〇七頁
第四五二條	三四頁
第四五三條	三四頁
第四五七條	六〇六頁
第四五八條	五八八頁、六〇六頁
第四六七條	二七八頁
第四七四條第二項	五一五頁
第四八二條	二七九頁
第四八三條	四二四頁
第四八四條	二四八頁
第四九三條	一〇七頁、二四八頁
第四九四條	二七七頁
第五〇六條	二七七頁
第五〇八條	五五四頁
第五一三條	五八四頁
第五二二條	四二四頁、五一九頁
第五二三條	二七八頁
第五二五條	四七〇頁
第五二六條第二項	三八七頁
第五二八條	四一五頁
第五三〇條	二七七頁、四六五頁、四九二頁
第五三三條	四四八頁、五〇四頁
第五三四條	三四頁、六〇〇頁
第五三五條	二四八頁
第五三六條	二四八頁

第五三七條	四〇七頁
第五四〇條	五五四頁
第五四一條	二七七頁、四六八頁
第五四四條	五〇五頁
第五四九條	八五頁
第五五〇條	二九四頁、四九五頁
第五五一條	一六六頁
第五五三條	五二三頁
第五五四條	二九三頁
第五五九條	二九五頁
第五六三條	四八八頁
第五六四條	五七九頁
第五六五條	二八九頁、四八八頁
第五六六條	二八九頁
第三項	五七九頁
第五六七條	二八九頁
第五六八條	二八九頁
第五六九條	二八九頁
第五七〇條	二八九頁、三九六頁
第五七一條	二八九頁
第五七九條	五五四頁
第五八〇條	四八八頁
第五八七條	二四七頁、二四九頁
第五九三條	二四九頁、二六三頁
第六〇一條	二四九頁、二六三頁
第六〇二條	八六頁、八九頁
第六〇四條	四八八頁
第六三六條	四三六頁
第六三七條	四三六頁
第六三八條	四三六頁
第六三九條	四三六頁
第六四三條	四一三頁
第六四四條	一一六頁、四三六頁
第六四五條	四三六頁
第六五〇條	一一八頁
第六五一條	一八六頁、四四〇頁
第六五三條	四四〇頁
第六五四條	四三八頁
第六五七條	二四九頁
第六六六條	二四七頁、二四九頁
第六九五條	八五頁
第六九七條	四〇〇頁
第七〇三條	一一六頁以下、二九七頁、五〇八頁
第七〇四條	二二七頁

第七〇九條	二九頁、一四八頁、二七九頁、五四五頁
第七一〇條	二九頁
第七一二條	五二頁
第七一三條	五二頁
第七一五條	一四六頁、一四七頁、一四八頁、三九九頁
第七二一條	四四頁
第七三七條	六〇一頁
第七五二條	五四頁
第七五五條	五四頁
第七五六條	五四頁、七四頁
第七五八條	五〇四頁
第七五九條	六四〇頁
第七六五條	五四頁、五六頁
第七七四條	五四頁、七五頁
第七七八條	九三頁、三六三頁、四八七頁
第七七九條	四九五頁
第七八〇條	五四頁
第七八七條	五〇六頁
第七九二條	五四頁
第七九三條	九五頁
第七九九條	二六三頁
第八〇一條	九五頁
第八〇四條	九一頁、四〇七頁
第八一〇條	七四頁
第八一三條第六號	九三頁
第八一六條	五八〇頁
第八一八條	五八〇頁
第八二五條	五七九頁
第八二八條	五四頁、五六頁、七四頁
第八四三條	四〇五頁
第八四四條	五六頁
第八四七條	五四頁、七四頁
第八五一條	四八七頁
第一號	三四九頁、三六三頁
第八五二條	四九五頁
第八五三條	五〇四頁
第八五九條	五〇六頁
第八六四條	七四頁
第八七〇條	五八〇頁
第八七七條	四〇九頁
第二項	四二七頁
第八七八條	六六頁、六九頁、一〇一頁、四五六頁
第八七九條	三六頁
第八八三條	六六頁、六九頁



第八八四條	四〇六頁、四〇九頁
但書	七三頁、四五六頁
第八八六條	五四頁、六六頁、一〇一頁、二五二頁、四五六頁
第八八七條	五八頁、四五六頁、四九五頁、四九七頁
第八八八條	四二二頁
第八九二條	七三頁
第八九五條	四二七頁
第八九六條	四二七頁、四三八頁
第八九七條	四二七頁
第八九九條	四三八頁
第九〇〇條	五八頁、七二頁
第九〇一條	四〇九頁
第九〇二條	四〇九頁
第三項	四二七頁
第九〇四條	四〇九頁
第九〇七條	一〇七頁、四三八頁
第九〇八條	四二七頁、四三八頁
第九〇九條	八二頁
第九一一條	四三八頁
第九一五條第四號	七三頁、四二二頁
第九一七條第三項	四三八頁
第九一九條第三項	四三八頁
第九二〇條	四三八頁
第九二二條	六六頁、六九頁
第九二二條	七三頁
第九二二條	七三頁、四〇六頁
第九二二條	七三頁、四五六頁
第九二九條	七三頁、一〇一頁、二五二頁、四五六頁
第九三〇條	五四頁、七三頁、四二二頁
第九三一條	七三頁、七四頁
第九三四條	四二七頁
第二項	四二七頁
第九三六條	七三頁、四五六頁、四九五頁、四九七頁
第九三七條	四三八頁
第九三九條	五四頁
第九五一條	五八〇頁
第九六四條	五〇頁
第九六五條	一〇七頁
第九六六條	二八頁、六四〇頁
第九六八條	四四頁
第九七三條	二八頁
第九七四條	二八頁
第九八六條	三五頁
第九九〇條第二項	五〇頁

第九九二條	五〇頁
第九九三條	四四頁、一〇七頁、六四〇頁
第九九四條	一三九頁
第九九五條	二八頁
第九九六條	一三九頁
第一〇〇一條	三五頁
第一〇一七條	五六九頁
第一〇二二條第二項	六四〇頁
第一〇二三條	八六頁
第一〇二四條	八六頁
第一〇三〇條	八六頁
第一〇三二條	二二〇頁
第二項	二二〇頁
第一〇四七條	五四六頁
第三項	二二〇頁
第一〇五一條	二二二頁
第一〇五二條	一三四頁
第一〇五九條	四〇九頁、六〇八頁
第一〇六一條	一三九頁、二二三頁
第一〇六二條	五四頁
第一〇六五條	七五頁
第一〇七三條	七五頁
第一〇八八條	八六頁
第一〇八九條	八六頁
第一〇九〇條	二八頁
第一〇九二條	一三九頁、二七一頁
第一〇九六條	五五一頁
第一一〇四條	五二三頁
第一一〇五條	五二三頁
第一一一七條	四二七頁
第一一二九條	四〇七頁
第一一三〇條	五二三頁
第一一四一條	一六七頁
第一一四一條	五二三頁
民法施行法	
第一條	一一頁
第二五條	一五八頁、二一一頁
第二七條	一七六頁
第二八條	一五五頁
立木法	
第一條	二四二頁
第二條	二四二頁

利息制限法

第二條.....四八八頁

戶籍法

第六九條.....四五頁

信託法

第六六條.....一五五頁

商法

第一條.....八頁  
 第五條.....六六頁  
 第十二條.....六八頁  
 第二二條.....三三三頁  
 第二六條.....一八四頁  
 第三〇條ノ二.....四二六頁  
 第四三條第二項.....一五三頁  
 第四九條.....一三六頁  
 第六一條.....四〇六頁

第六一條ノ二.....四二六頁  
 第六二條.....四〇六頁  
 第八二條.....二七一頁  
 第八五條.....二一五頁  
 第九一條.....二一七頁  
 第九一條ノ二.....二二一頁  
 第九三條ノ二.....四二六頁  
 第一〇五條.....二一五頁  
 第一一九條.....一六一頁  
 第一二三條.....一三六頁  
 第一三九條.....一三六頁  
 第一五六條.....一九五頁  
 第一五八條.....一九四頁  
 第一六〇條第二項.....一九四頁  
 第一六一條.....一九八頁  
 第一六二條.....一九七頁  
 第一六四條.....一八九頁  
 第一七〇條.....四二六頁  
 第一七〇條.....一六〇頁、一八九頁  
 第一七六條.....四二三頁  
 第一七六條.....四二三頁  
 第一七七條第二項.....一四九頁  
 第一八〇條.....一八八頁  
 第一八五條.....一九〇頁

條文索引終

第一八九條.....一八九頁  
 第一九六條.....二六四頁  
 第二〇九條.....二〇一頁  
 第二二一條.....二一三頁  
 第二三四條.....四二六頁  
 第二六二條.....二一九頁、二二〇頁  
 第二六八條.....四三八頁  
 第二六九條.....三八二頁  
 第二七八條.....一〇七頁  
 第二七九條.....六〇〇頁  
 第二八三條.....五七一頁  
 第二九五條.....六二五頁  
 第三一三條.....四〇八頁  
 第三三一條.....六三六頁  
 第三九六條.....五三五頁  
 第四三九條.....四八八頁  
 第四九七條.....八三頁

岩波書店刊行法學書目

佐藤雄能著	田中耕太郎著	松本丞治著	末弘嚴太郎著	末弘嚴太郎著	穗積重遠著	穗積重遠著	穗積重遠著	鳩山秀夫著	鳩山秀夫著	鳩山秀夫著	鳩山秀夫著	鳩山秀夫著
株式會社	株式會社	商法	民法	民法	親族法	親族法	親族法	民法	民法	民法	民法	民法
	概論	大意	講話(下卷)	講話(上卷)	大意	大意	綱	研究	研究	研究	研究	總論(下卷)
定價三十七錢	定價三十七錢	定價三十八錢	定價三十八錢	定價三十八錢	定價三十八錢	定價三十八錢	定價三十八錢	定價三十七錢	定價三十七錢	定價三十七錢	定價三十七錢	定價三十七錢

目書治政學法行刊店書波岩

恒應 恭著	法律の生命	定價二圓五十錢 送料書留二十七錢
シヤルモン 著 大澤 章 譯	法律思想 (1) 自然法の再生	定價二圓二十錢 送料書留十八錢
高柳賢三 著	新法學の基調	定價二圓八十錢 送料書留十八錢
テユギニ 著 木村 龜二 譯	國家變遷論	定價一圓六十錢 送料書留十八錢
石田文次郎 著	土地總有權史論	定價五圓二十錢 送料書留二十七錢
小野塚喜平次 著	現代政治の諸研究	定價四圓八十錢 送料書留二十七錢
小野塚教授在職 二十五年記念	政治學研究 (第一卷)	定價四圓二十錢 送料書留二十七錢
小野塚教授在職 二十五年記念	政治學研究 (第二卷)	定價四圓二十錢 送料書留二十七錢
占部百太郎 著	英國憲政史	定價八圓五十錢 送料書留三十六錢
占部百太郎 著	英國會之起原並進展	定價一圓二十錢 送料書留十八錢
今中次磨 著	政治思想史 (上卷)	定價六圓三十六錢 送料書留三十六錢
山田止戈三 著	政治研究	定價二圓八十錢 送料書留二十七錢

352  
227

